

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2020
9+10

第54・55合併号

あれから3ヶ月



泥の中からヒガンバナ（人吉市下城本町）© 松本 学

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

球磨焼酎



（前号）人吉市下城本町
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2019



球磨酒造株式会社

<http://www.sengetsu.co.jp/>
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

飲酒は20歳未満までから、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

雑誌 81779-10-0



4910817791007
01000

月刊 くまがわ春秋 第54+55号 2020年10月1日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社 TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 <http://www.hitooyoshi.co.jp/> info@hitooyoshi.co.jp

定価 1,100円 本体 1,000円

■あれから3ヶ月

見通せぬ被災地の生活再建…3
 坂本町に何が起ったか? ② つる祥子…4
 限界集落便り 坂本水害編 ② 坂本桃子…12
 温暖化時代の災害を考える 森明香…15
 くまがわの神さん仏さん ④ 宮原信晃…26
 建築みてある記 ④ 森山 学…30
 負けるな球磨川流域!! ② 岐部明廣…38
 今回の球磨川水害に向けて 松本晋一…44
 「ま坂」の道を歩みつ 吉岡弘晴…51

外来語から学ぶ英単語 (53) 藤原 宏…54
 球磨川大災害「鎮魂と再興を祈る」 富永和信…55
 倉敷便り ④ 原田正史…56
 いもご短歌会…58
 万年二等兵 ② 尾方豊水…59
 瀬戸致行という人そして私 ① 東喜代雄…64
 記憶の落ち穂 (52) 坂本福治…69
 砂時計—思い出るままに ⑧ 小野武己…70
 季語で一句 ⑩ 永田満徳選…75
 季語で一句 ⑪ 永田満徳選…76
 鵜飼短歌会 八月詠草…77
 小説・相良清兵衛 ③ 山口啓二…78
 字図で見る球磨の地名 ④ 上村重次…82
 方言を味わう ④ 九月 前田一洋…84
 方言を味わう ④ 十月 前田一洋…86
 新型コロナウイルス感染症 ④ 岐部明廣…88
 益田啓三『小説・肥後人吉藩残照』を読む…94

球磨川の駅・ものがたり

＝肥薩線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

絶賛発売中

球磨川の駅・ものがたり



「くまがわ春秋」に
 連載された
 31駅が二冊に

懐かしい
 球磨川の駅を
 たどる

■A5判 212頁オールカラー
 ■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、
 TSUTAYA 八代松江店、道の駅さかもと、
 くま川鉄道「くまたび」、発行元の人吉中央出版社、著者宛にどうぞ。



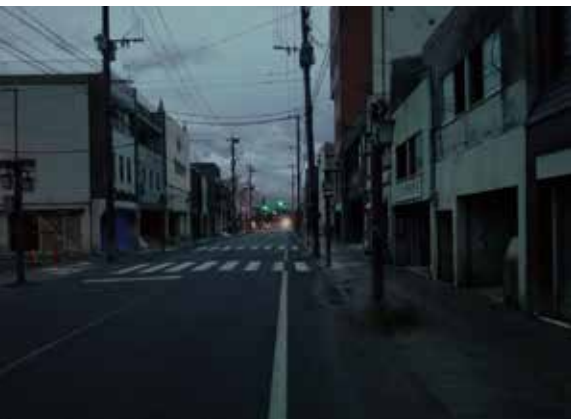
注文・発行元：人吉中央出版社 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
 ☎ 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759 <http://www.hitoyoshi.co.jp> info@hitoyoshi.co.jp

著者連絡・注文先：熊本県人吉市九日町115 松本歯科医院 (〒868-0004) Fax 0966-25-1360

本誌の
 取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスマ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木サンロー
 ド駅店) ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

街明かり いつ戻る？



街頭も消えて信号機の灯りだけが光る人吉市九日町通り（9月18日）



災害ごみが片付けられた人吉市下青井町の現在



坂本町で泥出しをする秀岳館高校の生徒たち

災害ごみ撤去進むが 見通せぬ被災地の生活再建

「令和2年7月豪雨」からもうす

ぐ3ヶ月、各地で復旧作業が進むなか広範囲で被害を受けた球磨川流域では、道路の寸断などによる復旧の状況に地域差が出ている。（流域全体

の被災状況については15頁参照）

人吉市中心部は災害ごみの撤去が進み、表面上は片付いたが人の姿が見られず、夜はゴーストタウンのようになつて静か。住民の将来への不安が広

がっている。

若い力が頼り

コロナ禍によりボランティアの姿が減るなか、高校生などが活躍している。特に秀岳館高校（八代市）の生徒たちは被災直後の7月7日から現地に入り、多彩な活動に取り組んでいる。多い日は一日300人が参加しており、被災者に歓迎されている。

球磨川流域で生きる

7月4日の洪水は想定できない出来事であったか。予測してはいなかったが、近年の気象状況の変化に照らすとき想定内の悲劇であった。全国各地で豪雨被害が発生していた。球磨川流域は例外だといえる根拠はなかった。同様のことは全国の河川すべてにあてはまる。日本だけでなく、世界各地で洪水が増加している。日本だけでなく、地球全体の自然環境が以前とはちがってきている。今回の洪水と地球の温暖化との因果関係を語る能力はないが、多くの人は温暖化と気象変動の関係を指摘し、それには十分な理由があるようにみえる。北極海の氷は溶け、いくつかの島国（キリバス共和国など）は水没の危機にある。海水温の上昇は台風・ハリケーンの巨大化の原因になっている。温暖化は世界的課題で流域住民の努力だけで解決できない問題である。けれど、無関心であつていいわけではない。球磨川は大自然の一部であつて、そのことは十分に自覚されるべきである。

球磨川は自然の造形物である。今回も、なんらかの意思のもとで氾濫したのではない。したがって、球磨川は決して悪くはない。課題は人間にある。

大自然は人間の生の土台である。ヒトは水なしには生きていけない。川には食物になる魚もいる。川舟は移動手段として役立つ。そして川の水は大地を潤す。それ故、ヒトは川の近くに住み、文明を育んできた。四大文明が大河の流域で発生したのは偶然ではない。わたしたちも、球磨川から恩恵を受けてきた。身近な例をあげれば、球磨川は子供時代の遊び場所にほかならなかった。まさに身近な存在であつた。いまもそうである。洪水のときもある。今回の大氾濫は一度きりではなく、これからもありうろと考えていいだろう。これからも、私たちは球磨川流域で生きる。ご先祖さまが作りあげてきた文化に包まれて生きる。けれど悲劇は一度だけでいい。気象状況の変化を頭にたたきこんで知恵をださなければならぬ。川辺川ダム建設論が急浮上しているが、ダムによる「治水」の発想は時代錯誤であろう。「治水」という言葉には自然に対する畏怖でなく驕りが含まれている

（春秋）

7月4日球磨川水害 坂本町に何が起こったか？②

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる詳子

山が崩れて土石が流れ込んだ市ノ俣川

坂本では過去の水害でも、本流と支流の合流点は度々水害に遭ってきた。今回の水害も例外ではない。しかし、その水害の起こり方が、今回は違う。いろんな合流点を見てきてそう感じている。過去の水害では、球磨川本流の堤防が高いために、支流に架かる橋の下から支流に水が逆流し、支流の方からあふれて、支流沿いにある家が浸水して被害を受ける。そういうケースが多かった。しかし、今回は支流上流から大量の土石と水が支流、本流へと流れ込み、合流点において流木・土石が流れを阻害し、堆積した結果、支流沿いにある道路や民家に大きな被害を出した。支流からの土砂とは、言うまでもなく、その供給源は山である。山の異変が、今回の水害被害を甚大にしている。そんな例

の二つとして、市ノ俣川流域について報告したい。

市ノ俣川

国道219号を坂本から人吉の方に南下すると、219号が左岸から右岸に変わるところに鎌瀬橋がある。今回の水害で跡形もなく崩落したので、今は球磨川を挟んで反対側の県道158号を行くことになる。鎌瀬橋から中津道の集落を右に見ながら500mも南に進むと市ノ俣川との合流点がある。この合流点にも、昔は数件の家とお茶工場があった。その時の建物は、今の道路より数メートルも低いところにあり、代々安全に暮らしてきたが、荒瀬ダム建設後の昭和38年、甚大な被害に遭い、住民は移転を余儀なくされている。従って今、合流点には民家はない。

市ノ俣川は、長さ10km程の支流で、合流点から1km程進

土砂に埋まった民家

球磨川との合流点から500m程行くと、中津道集落の一番上の民家・Sさんの家に下る道が右に見える。ここでの被害はどうだったのだろうか？と坂を下ると、土石に軒下まで埋まった民家を見て、息を飲んでしまった。坂の下にある物置小屋にSさんご夫婦が作業をされていたので、お話を聞いた。開口一番、「ここに取材に来られたのは初めて」。私たちが行ったのは8月29日。被災から50日以上経っている。もちろん、家の



図① 市ノ俣川流域。赤×は崩落した橋。枳ノ俣への道路は仮復旧作業で通行可能だが、市ノ俣集落は、道路崩落が激しく、未だ住民が戻ることが不可能である。(元地図出典：国土地理院ウェブサイト)

泥出しなど市の社会福祉協議会にお願いはされたが、重機を入れることも出来ず、人力での作業も無理ということ、そのまま解体という選択がしかなかった。それでも暇を見て、持ち出



① 中津道の市ノ俣川沿いにあるSさん宅は、軒先まで土砂に埋もれてしまった

せるものを少しずつ持ち出されて、整理されていた。

7月4日、午前3時過ぎ、ゴロゴロという音に目が覚めて、上の道路に出ると、山の斜面から石がゴロゴロと転がり落ちてきた。これは危ないと、家の中の道具を少しずつ、物置に運び始める。そのうちにどんどん水位が上がってくるので、道路沿いの高さにある小屋に避難をした。何時だったか覚えてないが、明るくなった時に、目の前にあった2階建ての工場が流されるのを見た。工場は、線香を作る工場で数年前まで操業していた。



② 家の中は土砂で埋まり、重機や人力で搬出することも困難で、今もそのままである



③-① Sさん宅前の市ノ俣川。左奥には2階建て工場があったが、流された。写真左手にあった川の流は右手に変わり、今は2m程の土石が堆積している



③-② ③-①と同じ場所の水害前の写真。ホテルが飛び交う美しい溪流だった。左奥に、流れた工場が見える（Sさん撮影）

避難しようとしたが、もう、上の道路は山からの土石で塞がれて下ることはできない。10時頃、Sさんご夫婦は記憶にあった山道を辿り、中津道小学校に避難。避難する時はもう雨は止んでいた。

翌日、瓦礫の山を越えて、我が家に様子を見に来られたという。その時のお気持ちはお尋ねすることもできない。家は瓦礫と土石の中に埋もれ、家の中は、堆積した泥の中に家具も埋もれたり、散乱したりしている。幅2mもないような川の対岸は数十mにもわたってえぐられ、切り立つ

た黒っぽい岩肌が出現。その下を川が流れている。元は川は家がある右岸側を流れていたが、左岸側に流れが変わり、右岸は1〜2mもの土石が堆積してしまった。その時、川底は2mは上昇しているかもとのことであった。このおびただしい土石はどこから来たのか、辿ってみることにした。

今も寸断された市ノ俣への道

球磨川との合流点から市ノ俣川沿いに1km程進むと、枳ノ俣への道との分岐点があり、現在市ノ俣への道はここから



④ 水害前は川の向こう岸は樹木で覆われていたが、数十メートルに渡って護岸が削り取られ、切り立った岩盤が露出してしまった



⑤ 市ノ俣方面と枳ノ俣方面に分かれる分岐に架かる橋。橋の手前が大きく洗堀された。橋の向こうの道路や護岸が酷く損傷しているのが分かる

先に進むことができない。9月20日、ここに、数台の車が止まっていた。聞くと、市ノ俣に住まいがあるMさんとそのご家族。被災して、ヘリコプターで避難後初めて、家を見に行こうとご家族で来られたものの、未だ通れない道の前に、諦めもつかない様子で立っておられた。市ノ俣には数件の民家があるが、一番上流にあるMさんの家だけが被災されたようだ。山からの土砂ですかと聞くと、そうですとのこと。

Mさんご家族は、ここで戻られたが、私は歩いて先に進むことにした。200mも進むと、またもや目を疑う光景が広がっていた。俣江というところに市ノ俣川と枳ノ俣川の合流点があるが、枳ノ俣川に架かる橋が大きく崩落。その橋の向こうには、ズタズタになった護岸と道がずっと続いているのが見える。

しかし、撮った写真をよく見ると、橋は無事なようである。元の地形がどうなっていたのか、皆目見当もつかないので、グーグルマップのストリートビューで確認する



⑧ 枳ノ俣の集落までの間には、大きく崩落した跡が数カ所見られた



⑨ 幸いにも被害がでなかった枳ノ俣集落



⑩ 道路沿いは、いまでも崩落しそうな斜面があちこちに確認できる



⑪ 枳ノ俣集落より、上流部でも大きな崩落箇所があるが、未だそのまま放置されている

mの高さで山崩れを起こしたようで、現在は土嚢を積み道は何とか通れるようになっていた。

枳ノ俣は、以前は20軒ほどの民家があったようであるが、現在は4軒。どこも今回は被害もなく、道路冠水もなかった。しかし、4日の豪雨で道路が寸断されたため、4日間の孤立の後、皆ヘリコプターで救出され、避難された。8月お盆前には道路が復旧したので、戻ってこられたところもある。

戻っておられたお一人の住民に、この上流は山崩れとかなかったのですかと聞くと、お陰で大丈夫だと答えて返った

てきた。しかし、念のためもう少し先に進むことにした。ここに来るまで、沢山の崩落箇所があった。この先に二つもないとは信じられなかった。

集落の最上流の家を通り過ぎるとすぐに、道は山の斜面からボロボロ崩れてきた小さな岩が散らばり進めそうもなかった。車を降りて歩くことにした。石ころだらけの道の斜面はどこも林床の草もなく、根元が露になった木々が多く、今度大雨が降ったら土石と共に倒れてきそうである。200mも進むと、大きな崩落箇所があり、30m程の高さから崩れた土石は道路を山と変え、はるか下方の川



⑥-① すっかり変貌した市ノ俣川。向こうに⑤の写真の橋がみえる



⑥-② 同じ場所のグーグルマップストリートビューの写真



⑦ こんな小さな崩落が至る所に見られ、土石は市ノ俣川に流れ込んでいる

と、枳ノ俣川の右岸と道路が大きくえぐられ、こちらが川のように深くなっている。水が引いた今、川の流れは元の川を流れていた。

市ノ俣集落へのアクセスをあきらめ、枳ノ俣川沿いを枳ノ俣までいくことにした。これほどの破壊力をもたらす、土石の発生源が枳ノ俣川上流にもあるはずである。

枳ノ俣川沿いの山の崩落

市ノ俣との分岐から2.5km程行くと、枳ノ俣集落がある。結論からいうと、この僅かな距離に大中小合わせて

11カ所の崩落があり唖然とした。220m毎に1カ所の割合である。いたるところの谷や斜面から土石が崩れ落ち、道路を塞ぎ川に流れ込んだ跡がある。大きなところは数10

おっとわっとあすび その④

絵と文／松舟博満

イネホシ竿



一コテの稲ワラは半分から引き裂くとして分けてからマダケの竿に架けて乾かしおしいやいたで、稲穂にやスズメのブラ下がつおったで、そっぱ追うてさるく（まわる）とは子どもが仕事じゃった。乾かしの出来たなっぱ、そんな中で足踏み脱穀機でモミにして、そっぱ唐箕で、ゴモク（ごみ）やらシイラ（実が入ってない）モミば風で吹き飛ばしおしいやいたで、そけにや鳥の良か餌場の出けたとじやった。

モミば落えたワラは、ワラコズミにされたつ、家ん持って戻って、ウシヤンマンハミンなった。田ん中にやかたずける暇もなかごて忙しゅうしおらいたで、イネホシ竿は、一時やそんなまんしてあつたで、子どもが良か、あすび場んなった。竿ば跨つてつこけんごて（こけないように）どしこ（どれだけ）行きがなつかしたり、鉄棒の逆上がりの練習をしたつしてあすうておつて、あすこん（あそこ）竿は高かやつとでブラ下がつがなつておもしろかぞて聞けば、そけえよつて（集まる）みんなすれであすびおつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



⑫ 更に上流にも大きな崩落があった。この上流にどれだけの崩落箇所があるか不明である

積ノ俣の集落が無事だったのは、運が良かっただけに過ぎない気がした。今度大雨があれば、今回崩れたところ、もしくは崩れそうになっていたところが、今回以上の崩れを起こさないという保証はどこにもない。

今回の水害は山の問題

今回の水害で共通していることは、道路をふさいだ土砂は、本流・支流沿いを問わず、川からの越流に伴うものではなく、山からきた土石であるところをはるかに多いということである。

そのために、山から供給された土石を含んだ濁流は破壊力を増し、支流及び本流の川底に堆積し、水面を押し上げている。今までの大雨では、どんなに球磨川本流の水が濁っても、数日もすれば支流の水は澄み、合流点での水の色の違いが、山が健全であることを示していた。しかし、7月4日以後の降雨時の支流の濁りはどうだろう。合流点を見ても、泥水が支流から流れ出しているところが多い。支流が流れる流域の山々が異変を起こしているのは間違いない。流域で何が起きているのか、検証することなしに、川だけの問題として治水を考えるのは、どうしても納得がいかない。

【鶴・しょうこ／八代市】

に流れ込んでいた。この先に集落はないので放置されたままである。

幅20m程の瓦礫の山を越えて、先に進むと100mも進まないうちに、また大きな崩落箇所があった。先ほどのところより、土石が大きく、石というより岩という感じで、先に進むのは難儀そうであるため、ここで引き返すことにした。この先どれほどの崩落箇所があるか見当もつかない。

限界集落便り

「2020年 坂本水害編 その②」

坂本 桃子

今日は2020年9月17日、前回の記事を書いてから2か月近く経ってしまいました。前回はまだ災害発生から3週間ほどで、まだまだ町も住民も混乱状態が続いているとお伝えしました。

さて、2か月近くが経ち、被災した八代市坂本町にもさまざまな動きがありました。大きな被害のあった店舗や保育園・施設・事業所等でも営業や運営を再開したり、新しい体制・新たな場所で再スタートをきったりと、少しずつですが前

に進んでいるようです。

一方で、家屋では未だに片付け作業や清掃作業が必要などところがあり、特に集落の中で共同で使用する空間や施設（側溝・橋・公民館・お堂さんなど）に関しては手つかずで、2か月以上経った今もそのままの状態のところが多くあります。このような地域からの復旧・復興に関わるニーズ調査は、「坂本住民自治協議会」内に設置された「坂本町復興推進部会」で、全地域において自治会長を通じてヒアリングを

行っており、今後その結果を元に問題解決のために動いていこうとしている段階です。

災害直後、特に7月から8月のお盆の頃までは平日・休日を問わずに坂本には多くの人の姿がみられていました。復旧作業に取り組む住民や町外から応援に駆け付けた企業・団体の姿も目にしていました。しかし、お盆を過ぎた頃を境に坂本から一気に人気がなくなってしまうように感じています。9月にはいつてからは、土日でもほとんど

人をみかけません。球磨川流域で甚大な被害のあった地区を歩くとまるでゴーストタウン。本来30〜40軒ある地区でも、今は片手で足りるほどの軒数しか住んでいないと、バツタリお会いした住民より教えていた

だきました。夜がさみしいよ〜と。本当に、限界集落になってしまった…。

少し悲しい話になってしまいました。しかし坂本町の復興は、これか

ら始まろうとしています。まだ、やっとスタートラインに立ったのではないかと？ と個人的に感じています。こんな中でももちろん、明るい話題もあるわけで、私は少しでも明るくなるべくニュースを！と思いながら坂本に通っています。というわけで、最後に明るいお話を。

ちよつと前の8月のお話になりますが、坂本ではだいたい8月に七夕の行事をおこないます。この「限界集落だより」でも取りあげたことのある、毎年恒例の旧暦七夕の伝統行事「木々子の七夕綱」も例年通り、木々子地区で開催されました。災害もあり、コロナもありで、多くの方が今年は中止だろうと予想していたのですが、きちんと8月6日



例年通り開催された「木々子の七夕綱」



いつもよりは少し小さめの綱

の日に七夕綱が張られていました。いつもよりは少し小さめの控えめの綱で、今年は縮小開催で外部からのお客様は呼ばず、マスコミ取材もいつもの半分以下で行われたようです。

中谷川に張られた七夕綱は、とても力強く、なぜだかいつもよりも輝いてみえました。木々子のご先祖さま、これでお盆は綱を渡って帰っ



衣領地区の娘さんが一人で飾りつけたという七夕飾り

てくれるねえ」と、私は嬉しくなりました。

木々子へ行く際、中谷川沿いのぼつていくのですが、途中にある衣領地区のとあるお宅の七夕飾りがとても美しく、心癒されました。

この娘さんが一人で飾りつけをされたそうです。今回の災害では大きな被害はなかったのですが、ライフラインが断たれていたためしばらく坂本から出て避難をされ、少し前に衣領地区に戻ってきたとのことでした。そんな中でも毎年欠かさずしている習慣だからと、しっかりと飾られていたことに感動しました。

余談ですが、このお母さんがつくるシソジュースが大好きで、数日前にその味を

イメージして自宅で作っていました。そしたら、この日にお母さんより、その憧れのシソジュースをごちそうしてもらいました。飲んでみると、ああ、やっぱりこれこれ！と笑みがこぼれ、自分でつくったこの味を再現したシソジュースはお母さんの足元にも及ばず、失敗作だったという話は内緒にしておきました。また、来年もつくってみます。今年よりは上手にできますように。



シソジュース

【さかもと・ももこ／水俣市】

(つづく)

球磨川豪雨災害から、温暖化時代の災害を考える

1. はじめに

近年、温暖化時代の気象が引き起こす災害の怖さを物語る出来事が各地で生じている。7月4日に球磨川流域を襲った



図表① 球磨川流域の雨量観測地点

観測地点	河川	累積雨量	9時間雨量
小麦尾	球磨川	396mm	275mm
湯山	球磨川	517mm	392mm
城山	柳橋川	436mm	327mm
上村	免田川	432mm	292mm
仁田尾	小原川	343mm	215mm
出る羽	五木小川	403mm	295mm
四浦	川辺川	462mm	344mm
大畑	鳩胸川	440mm	300mm
砂防人吉	胸川	502mm	357mm
田野	胸川	394mm*	196mm*
大川内	万江川	460mm*	370mm*
大野	球磨川	499mm	401mm
大槻	小川	495mm*	289mm*
神瀬	球磨川	564mm	465mm
坂本	球磨川	280mm	210mm
八代	球磨川	196mm	134mm

i 表の累積雨量・9時間雨量に示した*は欠測があったことを示す。つまり、記した雨量以上の降雨があった。観測データは国交省「川の防災情報」速報値を転載した。

凄まじい豪雨も、その二つに数えられるだろう。国交省の資料によれば7月平均降雨量は人吉で471.4mm/月。今回はわずか28時間足らずで1ヶ月分超の雨が降ったことになる。特徴的なのは、本流支流を含め、流域全体にまんべんなく降っていることだ。図表①に記したとおり、流域全体で短時間のうちに膨大な量の降雨があったことが窺える。

高知大学助教 森 明香



① 胸川ではコンクリート護岸が壊れ、橋が破損していた



② 万江川上流は通行止め、通行できた水無川では道路の両端に土砂が積もっていた



③ 万江川。土砂の堆積が凄まじく、流路が見えず元々がどうなっていたのかわからないほどだった

路をふさぐほど、あるいはガードレールや橋が宙に浮いたり流失するほどの崩れが見えられた(写真①、②)。

とりわけ万江川は堆砂が凄まじく、元の流路がよくわからないと感じた支流の一つだ(写真③)。また、大きく崩れ

害のあった支流を中、心に上流から下流まで車を走らせた。

表②は、同資料で5箇所以上の被害件数があつた支流および8月24日現在で調査中の支流を抜粋して一覧にしたものだ。

同資料では、本流で越水・溢水・決壊がのべ13箇所、護岸や樋管などの河川構造物で70箇所以上の損壊があつたことが報告されている。これを踏まえて表②を見ると、本流・支流の双方で、看過し難い被害が生じたことが見てとれる。なお、県の資料によれば9月3日時点で、全壊半壊の被害が多良木

2. 支流(都道府県管理区間)の被害について

流域を見て回つたのは8月11日から15日。国交省「令和2年7月豪雨災害による被害状況等について」に記された、被害のあつた支流を中、心に上流から下流まで車を走らせた。

町で9棟、あさぎり町で84棟、錦町で64棟報告されている。被害の様相に差はあるものの、上流から下流にわたって被災していることが資料からも窺える。

2-1. 人吉市より上流側

では実際に各支流はどうなっていたのか。

このエリアでは複数箇所護岸堤防が壊れコンクリートが川の中に流出し、堤防が壊れていた。中でも強く印象に残つたのは、市房ダム湖周辺、免田川、万江川、胸川だ。崩れ方などの規模の大きさ、川の流路を変えるほどの土砂に驚か

表② 支流の被害状況(抜粋)

河川	市町村	被害状況		対策状況
		状態	件数	
百済木川	八代市	護岸損壊	137	応急対策検討中
鶴喰川	八代市	護岸損壊	11	調査中
走水川	八代市	護岸損壊	1	調査中
中谷川	八代市	護岸損壊	1	調査中
油谷川	八代市	護岸損壊	1	調査中
市之俣川	八代市	護岸損壊	1	調査中
吉尾川	芦北町	護岸損壊	35	応急対策検討中
大尼田川	芦北町	護岸損壊	23	応急対策検討中
天月川	芦北町	護岸損壊	13	応急対策検討中
漆川内川	芦北町	護岸損壊	7	応急対策中
告川	芦北町	護岸損壊	19	応急対策中
鹿目川	人吉市	護岸損壊	8	対策完了
鳩胸川	人吉市	護岸損壊	11	対策完了
山田川	人吉市	護岸損壊	6	応急対策完了
永野川	人吉市	護岸損壊	9	対策完了
小瀬川	人吉市他	護岸損壊	10	対策完了
万江川	山江村他	護岸損壊	19	応急対策完了
川辺川	相良村	護岸損壊	17	対策完了
野間川	錦町	護岸損壊	8	対策完了
水無川	錦町	護岸損壊	9	対策完了
免田川	あさぎり町	護岸損壊	7	応急対策中
宮ヶ野川	多良木町	護岸損壊	12	対策完了
牛線川	多良木町	護岸損壊	6	対策完了
小川	球磨村	護岸損壊	12	対策完了
川内川	球磨村	排水施設損壊	11	対策完了
中園川	球磨村	護岸損壊	6	対策完了

国交省「令和2年7月豪雨災害による被害状況等について(第48報)」より転載

- ii 現地を回つた際は8月4日時点(第45報)を携えていた。
- iii 球磨川流域の全壊半壊は次の通り記されている。八代市362棟、芦北町1,024棟、球磨村402棟、五木村2,243棟、相良村106棟、山江村25棟、五木村と水上村は各1棟(熊本県「令和2年7月豪雨9月3日公開資料」)。

現場を歩き、その地で暮らしてきた方々のお話を伺うよりほかない。すぐにお話を伺うことは難しくても、少なくとも現地を見て回ることはできるだろう。

本稿では、豪雨災害からおよそ1ヶ月余り後に球磨川本流沿いや支流を見て回り印象に残つたことについて、写真とともに紹介したい。

2010年代から流域の降雨と洪水について定点観測を続けている「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会」によれば、これまでも1時間に100mmの降雨が流域を襲うことはあつた。だが、これまではあくまで限られた地点での降雨で、今回のように球磨川水系流域全体を襲つたことはなかったという(『戦後住民運動資料集成 川辺川ダム建設反対運動資料第9巻』)。

この間、私は、ささやかな品を持って被災後の流域を何度

か訪れている。流域を回る中で、人吉盆地での被害と球磨村より下流の狭窄部での被害の出方には違いがあることや、水位もさることながら大量の土砂や石・流木の凄まじさが、とても気になるようになった。国交省は、越水や護岸損壊などの被害を「令和2年7月豪雨災害による被害状況等について」で公表している。ただ、被害をもたらし背景などの詳細が明らかにされている、とは言い難い。



⑩ 免田川



⑨ 免田川・清願寺ダム湖



⑫ 国土強靱化により伐採された防備林



⑪ 球磨川と川辺川との合流点付近では防備林を超えて流木が入っていた



⑬ 人吉での決壊箇所。樋門の側だった

る。そこでは、伐採された箇所から瓦礫が田んぼに流入しているケースが見られた（写真⑫）。伐採されていない箇所に流入した土砂とは異なり大きな瓦礫があることが目視からは感じられた。

本流でも印象に残ったことがある。決壊した箇所の近くには樋門があったことだ（写真⑬）。樋門がある場所は堤防の構造的に弱い箇所だと、物理教育を専門としていた方から教わったことがある。その指摘を裏付けるような光景だった。他にも、蛇行のどこの地点か、すぐ近くの上・下流の堤防の状態（新しさや強度）といったことが、護岸損壊をもたらす要素として大きく影響を与えているように感じられた。



④ 万江川・高速道路橋脚



⑤ 万江川・高速道路橋脚



⑥ 万江川・高速道路橋脚



⑦ 市房ダム湖。湯山川の流入する地点で大きく崩れていた



⑧ 市房ダム湖

た箇所のそばに高速道路の橋脚があるといった光景を複数箇所で見えた（写真④、⑤、⑥）。これらの構造物が何らかの影響を及ぼしているかを論じるための準備は私にはまだないものの、この光景はとても印象に残っている。

市房ダム湖ではあめんぼ館まで赴いた。ダム湖に流入する支流や谷川のほぼ全てで、道路をふさぐほどの崩れが見られた。写真⑦、⑧は湯山川から流入する箇所だが、崩れが大きくて素人の私では全体像を撮ることは難しい。そう感じるほどの規模の大きな崩れだった。

免田川上流の清願寺ダム上流でも似た状況があった（写真⑨）。また、写真⑩のように、各支流を上流側に向かって遡る途中で山からの土砂が道を塞いだ痕跡が複数箇所で見受けられた。

さらに川辺川、小瀬川の合流点付近も、洪水の凄まじいエネルギーを痛感するという点で強く印象に残っている。「川に学ぶ」研究会で指摘されていたように、この合流点エリアには氾濫原の役割を担ってきた地が広がっている（詳しくは本誌39号を参照）。川との間には水害防備林が築かれ、田んぼに土砂がそのまま入らぬようにした「地域の知恵」が景観に埋め込まれたエリアでもあった。だが、そうした防備林をものともせぬ勢いで洪水が溢れ出たことが、痕跡から窺えた（写真⑪）。

一方で防備林が大量の土砂に対しては効果を持つことを改めて感じる光景も目にした。合流点から川辺川を少し上流に向かった相良大橋辺りや、合流点を少し下った人吉市七地町では、「国土強靱化」の名目で防備林が伐採された箇所があ

2-2. 球磨村・芦北町・旧坂本村など中流域の狭窄部より下流側

国道219号に沿って下流へと向かうと、狭窄部に入る前のあたりから、護岸の崩れや道路の崩落跡、山からの土砂の流入、洪水のエネルギーの凄まじさを物語る光景が続いた（写真⑭）。支流や谷筋はほぼ全てが崩れ、大量の土砂や石が本流や道路に流れ込んでいた（写真⑮、⑯）。なぜこれほど同時多発的に大／中／小規模の崩れが生じたのか。そう思われる箇所が、悠に数十は超えているように思われた。

伊高瀬・竹の谷川・多武除谷川をはじめ、このエリアの多くの沢筋や支流との合流点は、橋の欄干を超え、あるいは家の屋根まで土砂が覆いかぶさっていた（写真⑰、⑱）。



⑭ コンクリート護岸の破損状況が洪水の凄まじさを物語る



⑮ 土砂が砂防ダムを乗り越えていた



⑯ 土砂や大きな石がフェンスを突き破り道に溢れていた



⑰ 竹の谷川



⑱ 多武除谷川

行徳川では私より大きな石が混じった土石流と杉檜とが大量に流れ出ていた（写真⑲）。明神谷ほか数多くの谷筋では、林床の状況はよく見えないものの本流に数以上にわたって土砂が流入していた（写真⑳、㉑）。こういった状況は、道路の側面に備えられた水吐きのある箇所のほぼ全てで見受けられた。

上流へと通行できたのは小川、吉尾川、百済木川、油谷川、袈裟堂川、深水川に止まった。時間の関係から、車から降りて見たところはさらに限られた。こうした限定的な巡検に止まったという留保付きだが、小川、吉尾川にくわえ、油谷川など各支流と本流との合流点付近の状況、そして本流の状況も強く印象に残っている。

小川では、立野地区までしか廻ることができていないが、



⑳ 支流や谷川は本流に大量の土砂をもたらしていた



㉑ 小川（渡）



㉒ 行徳川



㉓ 谷筋の崩れと洪水とで被害を受けていることが窺える



㉔ 小川（渡）



㉕ 百済木川

その道中で複数箇所山や護岸の崩れが見られた（写真㉔、㉕）。小川沿いでは甚大な人的被害が生じた。ただ、見て回る限り、支流沿いでも家屋を含めた甚大な被害のあった箇所と、そうではないところがあった。何が被災状況を分けることになったのかは、被災した方々の体験談に学ぶことを含めた十分な検証が、今後不可欠だろう。

吉尾川を見るにあたっては、県道30号に沿って百済木川を廻り、吉尾川に入って県道272号を走った。百済木川でも崩れや田畑のための水路から土砂が流入した様子が見受けられた（写真㉔）。ただ吉尾川では、元はどのよう



③⑩ 坂本駅前の水位を示す電柱。昭和 40 年に比べてはるか上まで痕跡がある。被災した家の様子からも、凄まじい勢いで洪水が来たことが窺える

ずにはいらなかった。

印象に残る証言についても紹介しておきたい。旧坂本村では、本流の洪水が凄まじい勢いで直撃したエリアがある一方で、「家と川とを挟むエリアにあった樹木／少し上流側の岩」といった構造物が洪水のエネルギーを緩和させることに繋がったと思う、といった証言である。実際に、家が流された／流されなかった、屋内に家財が残った／残らなかった、といった違いが、道を挟んだ家、同じ川筋の家の間に出ていた。立地や地形の差、構造物とのわずかな位置関係が、被害の出力に影響を与えていることを窺わせる証言には、他の地点でも接した。

球磨村渡地区では、小川と本流とが合流する付近の堤防が低くなっている線路の箇所から護岸が崩れた、という証言に触れた。後日訪れた時、低い場所が崩れる一方で、新しい護岸箇所（導流堤）には損壊は全く見られなかった（写真③⑪）。コンクリート護岸の新旧がその直下・直上の地点の被害の生じ方に何らかの影響を及ぼしているように感じる光景は、他の地点でも見受けられた。

被害を拡大させた要因は、各地点の地形や地質、さらには構造物の状況をも反映しているようで、一概に論じる



②⑤ 吉尾川。どのような土地利用をしていたのかわからないほどに土砂が覆っていた



②⑥ 吉尾川。コンクリート護岸が破損し右岸後方に散らばっていた



②⑦ 吉尾川と本流とが合流する箇所。見流限りではこの近くの護岸は崩れていないようだった



②⑧ 油谷川。旧鮎婦小学校付近など、見る限りは大きな被害はなさそうに思えた

な土地利用をしていたのかさえないほどの規模で土砂が流入している、護岸が破損するといった箇所が見受けられた（写真②⑤、②⑥）。一方で、コンクリート護岸は無事であるものの、その上部や周辺の建造物に被害の影響が出ている光景も目の当たりにした（写真②⑦）。

油谷川では、2—1で言及した市房ダム湖や免田川と似た光景に出くわした。ダム湖上流での崩れが著しかったのだ（写真②⑧）。ダム湖の下流では、合流点近くに差し掛かるエリアでは洪水の激しさを感じさせる家屋の被災状況が見られた。ただその間の区間では、合流点付近のような状況はほとんど見られなかった（写真②⑨）。先述した通りそれぞれの上流部を見に行くことのできた支流は限られるが、支流が本流と合流するエリアはいつでも、甚大な被害を被っている

ような印象を受けた。

節の冒頭で述べた通り、本流沿いでは洪水のエネルギーを護岸や家屋が直に受けたことを窺わせる光景が散見された（写真③⑩）。川の水位もさることながら、山からの土石流が被害を甚大化させたことが窺える箇所が数え切れないほどあった。山の状態がどうなっているのか、と思わ



②⑧ 油谷川。ダム湖上流では大きな崩れが生じていた。比較のために筆者が土砂の中に立っている



③ 傷のない導流堤

ことは容易ではない。ただ、河川構造物の被害箇所やそれに伴う被災家屋や集落の中には、近年の誤った取り組みによって被害が拡大したのではと思わされるケースもあるように感じられた。たとえば瀬戸石ダムの下流では放送が途中で途絶えたという。土砂を含む凄まじいエネルギーを持つ濁流を前にして、ダムのような流れを堰き止める存在は他の箇所には大きな被害をもたらす存在へと化した。こうした反省は、学際的な調査を含めた丁寧な検証のもとで、きちんとされなければならないと思う。

3. 国と県による検証が始まった、が…

8月末からこの豪雨災害の検証が始まった。国と熊本県が事務局を担い、流域12市町村の首長が委員として名を連ねる「令和2年7月球磨川豪雨災害検証委員会」だ。ただ残念ながら、第1回の内容を確認する限り、未曾有の災害の検証としては不十分極まりないと言わざるを得ないものだった。

検証委員会では、降雨量や流量など豪雨の概要と被害の概況、そして市房ダムの効果と、川辺川ダムが存在していた場合の効果に、多くの時間が割かれた。流域を歩いて回り、可能な範囲でお話を伺っている立場からすれば、あまりに欠落した論点が多く、恣意的なデータの提示方法に止まっている、というのが率直な印象だ。

たとえば、市房ダムの効果を謳う資料では、球磨川における観測所の一つ多良木観測所付近のみをピックアップし「90cm水位を下げた」と表している。なお、前述した通り多良木町では全壊1棟・半壊8棟・床下浸水50棟を含む被害があり、その事実は熊本県災害対策本部資料に明記されている。だが検証委員会では触れられぬまま、市房

ダムの効果³が強調された。

取り上げる被害はいわば「つまみ食い」状態と言っても過言ではない。現に、8月25日の検証委員会に対し8月31日には流域住民団体を含む県内の市民団体から、検証委員会に対し検証内容への抗議と提言が提出された（「第1回球磨川豪雨検証委員会に対する抗議と提言」は<https://bit.ly/3bgNAY9>にて閲覧できる^{iv}）。現行の検証委員会では筋の通った被災した方々にも納得のいく政策判断ができるのか、疑問を抱いてしまう。

検証委員会は今後も継続され、年内を目処に方向性を固めるという。どのような検証がなされるのか、引き続き注視したい。

4. おわりに

球磨川豪雨災害から2ヶ月半が過ぎた。通れるようになったエリアに足を運ぶたびに、球磨川豪雨災害の凄まじさを伝える光景に出合う。どれほど大変な状況下で避難したのだろう、と想像を試みる。被災された方々のこと、いのちを落とされた方々を思うと、胸が詰まる。

温暖化時代の豪雨は、流域に凄まじい被害をもたらす

た。豪雨が凄まじい洪水を引き起こしたことは間違いない。ただ、流域を見て回る中で、川や山に対する人の手の入れ方が、各地点での被害の現れ方に影響を与えている面も否めないように感じている。

繰り返しになるが、球磨川豪雨災害を考えるにあたってはまだまだ検証が必要だ。とりわけ、何が川と山を荒らしたのか、なぜ人命が失われることになったのか、避難した人たちはどのようにして逃げる判断をしたのか、といった論点の検証が慎重になされることは今後の流域社会づくりを考えるにあたって必須だろう。

川の傍で暮らすための知恵の具体を私が初めて知ったのは、この球磨川流域だった。その球磨川流域で起きた豪雨災害から、被災した方々のご経験から、何を学び教訓として残すことができるのだろうか。すぐに答えの出ることではない。それでも、考え続けたい。

【もり・さやか／高知市】

^{iv}その後、複数の申し入れや要望が県内の市民団体から提出されている。詳しくは<http://kawabegawajp>を参照

くまがわの神さん仏さん 48

高沢観音堂へ向かう

— 各支流にも水害の爪痕が —

宮原信晃

偶然にも大水害の十日前に球磨村の山口集落に鎮座する「王子神社」の取材をしていた。神社の尾方宮司先生にお会いして室町時代のかげ仏を見せてもらったり、虫除けの

お札の写真も撮らせて頂いた。それが何ということか、見るも無残に王子神社も山口集落も球磨村の球磨川に面した地域は「全滅」。

あえて、球磨川周辺の集落は「全滅」した。
先月号に写真でご紹介していた山口集落の平根末一さんや山口道人さんの無事を確認するために被災現場へ車を飛ばした。
山口集落の復旧の最中に平根さん宅へ顔を出す。そこには白い大きなマスクをした平根さんがいた。
「寝とつたら畳が浮いて、体をポコンポコンと押し上げた。こら大変ばい！」と逃げ出そうとしたら息子がいてくれて良かったです。息子が泳いで助けてくれた。屋根に逃げ、それでも水が上がって来たので、最後は屋根のてっぺんに足で跨いで座って、水の引くのを待った。太陽が日照って屋根



屋根のてっぺんに跨がって助かった平根さん（山口集落のご自宅前にて）



— 王子神社で唯一残った由来文（江戸時代）

「寝とつたら畳が浮いて、体をポコンポコンと押し上げた。こら大変ばい！」と逃げ出そうとしたら息子がいてくれて良かったです。息子が泳いで助けてくれた。屋根に逃げ、それでも水が上がって来たので、最後は屋根のてっぺんに足で跨いで座って、水の引くのを待った。太陽が日照って屋根

の瓦屋根が焼けて股を火傷して医療センターに4日入院しとったつばい」と恐ろしい体験をお聞きした。これからも頑張るように声を掛けて運動公園のサクラドームへ行つた。

「通行許可証」を頂き、一路、球

磨川の下流へ国道219号を走る。渡駅を過ぎ、新しく建設された橋を渡つて茶屋という集落を見下ろすと、それはそれは大水害の被害のままの光景がそのまま残っていた。その下流には肥薩線でも有名だった鉄橋が無残にも、球磨川のほとりに

赤い塗料の色で横たわっていた。球泉洞の前を過ぎ、大きくカーブする手前の小さな小道を右へ上る。大瀬集落の横を通過して上へ上へ。20分ほど山道を走ると、左下数百mも下に球磨川が見える高い場所を車は走っていく。



流出した第二球磨川橋梁の残骸



沢見集落の入り口。田んぼだったところも流されている



高沢観音堂の仏様たち



故高沢喜純さん宅からみる集落の風景と美味しい水

る所とで宝物の交換をしていた。2年ごとの交換でどちらかが捕まっても、もう一方の宝を助ける段取りか。元高沢小学校へ上る分岐点に高沢観音堂があった。美しい朱色の稲荷神社のとなりである。お堂に入り手を合わせると目の前に2体の仏様がおられた。お一人は十一面観音様

と聖観音様。「高沢の観音様たち、私にお教え下さい。この度の球磨川の大水害は何故起きたのでしょうか。何故何十名もの人が亡くなったのか。大自然的の驚異を目にして、なすすべもなかった私たちは、これからどうすればよいのでしょうか。仏様、どうか

お教えくださいませ」。高沢の神さん仏さんに見送られて、今はキラキラと輝く清流の高沢集落を後にした。きつと答えを私たちに教えて頂けるに違いない、そんな気がした。【みやはら・のぶあき／宮原はり灸院院長】



横井へ行く道が流されたため、川の土砂を入れて補修した高沢集落の道路



高沢集落の方から災害の状況を聞く編集者（ま）さん

沢見集落のお方にお話を聞き、本日の目的地「高沢」集落へ着いた。高沢では色々な人に話を聞いた。「こんな小川があの日だけは凄

かったですよ。あの家もこの家も水害です。この上の横井へ向かう道は無くなったので、埋まってしまった川の土砂を道に重機で捌き上げて、道を造ってもらいました」と声を震わせながらお話頂い

た。「こやんことは初めてやったばい。我が家の床下の泥を抜くために土台の壁に穴を開けて泥を出してもらいました。本当におとしかったです」と。

この高沢集落は昔からの隠れ念仏の里としても有名な所であった。この高沢集落と山江村は山田のあ

八代市坂本町をあるく

森山 学

令和二年七月豪雨により被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、残念ながら亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

この連載も最終回を迎えるというときに、この災害が起きました。今回はかつて紹介した八代市坂本町に所在する建物の被災状況についてお伝えすることとします。

あらためて言うまでもなく、坂本町は球磨川とその支流に沿って、川沿いや山間に集落が点在します。橋梁の流失や護岸道路の崩落、土

砂崩れなどにより、道路の仮復旧が進むまでは、どの地域へ行くにはどの道を通ればいいのか、先日はここを通ったけれども、今回はどの道を通るべきか、といった状況で、孤立した集落や地元の方がもちろん一番苦労しているのですが、坂本町へ向かう人々にとつても、近づきがたい状況でした。

その一方でこのような集落が点在する構造こそが、各々の集落において、川とともにそこに強く根差して生きてきた暮らしの蓄積を、訪問者に対しても強く印象を与えてき

たものと思います。
そんな坂本町を下流の方から概観していきます。

まずもつとも下流の地域にあたる古田阿蘇神社（本誌第三六号）の浸水は、堤防道路下のカルバートンネルから流入したと考えられ、約九〇センチの浸水でしたが、社殿自体は斜面に三段のテラスを築き建てていることから被災を免れました。

ヨーロッパの古城のように川辺に屹立していた赤煉瓦の深水発電所（本誌第三二号、写真①）は、報道でもご存じのように深水橋ともども流出してしまいました。発電機械だけが残されています。一方、油谷川沿いの木造下見板張りの鮎帰発電所（同号）は、背後の斜面か

害と比べると奇跡的とも言えます。集落内には約五メートル、境内付近では約三・二メートルの浸水も認められるからです。

藤本地区ではまず谷川の塩合川が増水し土砂が流れ、この土砂を藤本天満宮裏の眼鏡橋がせき止めました。バックウォーターも考えられ、球磨川の堤内地での浸水が先行しました。油谷川、袈裟堂川、三坂川などでも球磨川との合流地点での被害が大きく、今後の対策が求められます。

藤本の対岸となる合志野地区の被害は甚大なものです。球磨川は半島のように突出する藤本地区を回り込み、合志野で反対方向に大きく蛇行しています。水は合志野を乗り越え、その先の坂本地区にも突



写真① 流出した深水発電所跡

ら崩れた土砂が背面の壁を二メートルほど埋めてはいるものの、浸水は認められませんでした。すぐ下流の護岸が崩壊しているので川の勢いはあつたはずですが、もしかすると、すぐ上流で自然岩盤が川に突出しており、それが水制工の役割を果たしたのかもしれない。

藤本五所神社（本誌六号）は約一・七メートルの浸水で、拝殿は床上浸水でしたが本殿は基壇の上に建つために床下浸水にとどまりました。拝殿床下の泥出しは終わっていないものの、縁束のずれ、末社の板壁や木階に一部破損が認められるばかりで、周辺の被



写真④ 中津道阿蘇神社の末社・金比羅神社

り、天井板にはカビが発生してきています。本殿は大床（縁側）の床板、木階、勾欄、脇障子、板壁、降懸魚、屋根の一部が破損しています。玉垣もずれてそれに伴い幣殿が一部破損



写真② 鶴之湯旅館での復旧作業

進んでいたようです。
半島のような藤本の対岸上流にあたる広域交流センターさかもと館・道の駅「坂本」（本誌第四一〇号）でも、前面道路から高い位置に建っているにも関わらず、屋内土間から約三・二メートル、浸水しました。
上葉木、下葉木（本誌第十四号）



写真③ 中津道阿蘇神社での復旧作業（本校学生）

は高台で被害はありませんでしたが、集落の真下にある荒瀬ダムポーthouse（本誌第二〇号）は約一メートルの浸水で、床上に泥が残るほか、建具が破損しています。
その上流の鶴之湯旅館（本誌第三〇号、写真②）は前面道路から七〇センチほど高いにも関わらず、

しています。また末社は水平方向に一回転し、基壇からずれ落ちています（写真④）。
百済来川沿いでは、JAやつしろ坂本支所（本誌第三九号）が約一・一メートルの浸水でした。床上では約十五センチの浸水で床下に泥は残ります。和洋併設ですから、座敷は畳も浸かっています。
久多良木神社（本誌第三五号）は周辺住宅の被害や山手から土砂が流れ込んだ様子と比べて被害はほとんどなく、隣接する小学校グラウンド跡地で約二〇センチの浸水はあるものの、境内がそれより高いために浸水被害はありませんでした。
百済来地蔵堂（本誌第二五号）の方も高台にあつて、土砂崩れもなく被害はありませんでした。

約一・八メートルの浸水で、建具や畳などが流出し、床上や地下室にも泥が堆積しました。また土壁は下半または全面が崩落しています。これでも大きな被害ですが、すぐ上流にある巨岩、行道巖が、激流を押し返していたのではないかと考えられます。旅館周辺では水の流れが逆方向に巻いていたそうです。

かつて境内をかき上げしている中津道阿蘇神社（本誌第二二号、写真③）では、約三・五メートルの浸水でした。近隣では鎌瀬橋や球磨川第一橋梁が流出し、球磨川が大きく蛇行する中津道から鎌瀬にかけての住宅も大きな被害を受けています。その拝殿は床上に泥が堆積したほか、天井板、腰壁、屋根瓦が破損し、床板は膨張して浮き上が

ここで紹介した建物が建っていない地域でも、被害を受けています。地域の方々においては地元で暮らし続けたい気持ちと、大規模災害が毎年起きる今の時代にあつて再びこの大水害が起きるかもしれない不安に悩まされていることと思います。素敵な坂本町が復興するため、非力ながらお力添えさせていただければと思います。

今回で「建築みである記」シリーズは最終回です。これまでお読みいただいたみなさま、ありがとうございました。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



先祖に報告するため二人で仏様参り。主人も私も感謝感激！

皆に喜ばれ可愛がられた。
成人式では代表で謝辞
を読み、NHKのど自慢で
は熊本のチャンピオンに

なり、九州大会チャンピオ
ン大集合にも出場した。
その後は看護師をしながら
休みを利用し、ボランティ

アやチャリティーで、
踊りではなく歌って
いる。

私は吉本お笑い
形だが、夢都美の
歌は本物だ（親バ
カ）。職場の新年会
忘年会では衣装を
用意し皆を踊らせ、
院長先生から「お
母さんの後をちゃん
と継いでいますよ」
と言われた事もあつ
た。

そんな夢都美が

結婚することになった。相
手は同じ職場の翔ちゃん
だ。今年の正月、皆が揃つ
たところで私は大きな声
で、それも夢都美の目の前
で「恋する女は綺麗だ、
けっしてお世辞じゃないぜ
」と何回も何回も歌った。
「気付かれてる」と思っ
た夢都美は、「ハイハイハイ
分かったから静かに良く話
を聞いて」と言いながら、
彼との事を語り始めた。
それから両親の所に挨拶
に行き、私の家にも顔見
せに連れて来てくれた。
向こうのご両親も年の差
も気にせず、娘の事を気に
入って頂き喜んで頂いた。

その時のお父さんの言葉
は、「1年でも1ヶ月でも
長生きして下さい。男は女
が先に逝かれるとダメにな
るから」とおっしゃって頂
き、翔ちゃんも「どんな体
形になっても良いから長生
きして下さい」と言ったそ
うだ。大変なコロナ時代を
二人で乗り越え協力し合
い、助け合いながら人生を
歩んでほしい。

夢都美をあん時、産ん
で良かった。同じ職場で咲
いた花、翔ちゃんにありが
とう。

【うえずぎ・よしの／ボランティ
ア 観光バスガール、あさぎり町上】



上杉芳野の「あがつ段」⑤⑩

コロナ時代に咲いた花

私の母は31歳の前厄の年
に私を畑で産み落とした
が、産後のひだちが悪く、
私が1歳1ヶ月の時に他界
した。

私が次女の夢都美を産
んだのも33歳の後厄の時
だった。父は、私が産後に
母の様に死ぬのを恐れ、産
む事を反対した。「大志
も望も子供は二人おつと
じやつで、もう産むな。お
いが銭は出すで、おろせ」



成人式の時に買った振り袖
姿で

住んでいた時、
長男である私の
主人が、実家の
親を看るために
帰郷した。その
時、夢都美は2

と言ったが、「今は昔とは
違う」と言って私は産んだ。
転勤族として横須賀に

歳だったので、自分は「都
会生まれの田舎育ち」と
言っている。

夢都美は小さい頃から誰
に似たのか、歌・踊りが大
好きで、私がいろんなイベ
ントに呼ばれて行くと、ど
こそこ付いて回り、小さい
ながらも愛らしく踊るので



夢都美と翔ちゃん

家で発見した
旧写真

一枚の古写真から ⑤

益田啓三

第三十七代「相良頼綱」の弟たち

第37代の相良頼綱じゃ。

ところで、わしを主人公にした小説が出版されたそうじゃな、わしはまだ読んではおらんが出来栄えはどうかな？ ちよつと恥ずかしい気もするのう。



写真① 相良基孝と基直



写真② 左が基孝。右が頼綱

写真③

末弟の基直じゃ。いやいや今では「男爵 島津久賢」となり立派になったもんじゃ。わしは後には「子爵」を返上したがの…。なぜう…それは聞かないでくれい。色々悩んでのことじゃ。

小説「肥後人吉残照 相良頼綱」を読んだら、少しはわしの心情が分かるじゃろ。よろしくたのむ。

【ますだ・けいぞう／人吉市】

先ごろ人吉は大変な災害だったそうじゃな。昔はそこまで水が出ることはなかったがの。やはり地球環境が変わったのもあるじゃろ、また山が荒れておるのも気になる。わしは人吉が大好きじゃから、何とか早く元のような町になることを祈つておる。

今回はわしの弟たちを紹介しよう。

写真①

右は相良基直で一番下の弟じゃ。後に鹿児島島の加治木島津家の島津久宝の娘の直と結婚し、島津家を継ぎ島津久賢と名乗った。

左は相良基孝じゃ。後に分家して人吉に住んでおる。

写真②

前列の右がわしじゃ。まだ若いのう。

左が基孝で人吉のご内家に住んでおった。一時は学校の先生もしておった。



写真③ 末弟の基直。のち島津久賢男爵

相良家 家系図



負けるな人吉・球磨!! 負けるな芦北・坂本!! ②

7・4水害を検証する

人吉市医師会長 岐部明廣

もし川辺川ダムがあつたら、

①今回の洪水を防げた（かなり軽減できた）という意見があるが本当にそうだろうか？

相良村、人吉市、球磨村、芦北町、坂本町と個別に検証すべきだろう。

②氾濫時に川辺川ダム緊急放流のリスクはなかったのだろうか？

①・②を検証するために、次の(1)・(2)を検証したい。

(1)雨量

(2)最大洪水流量（最大ピーク流量）

蒲島熊本県知事も「地元住民の意見を尊重する」と言っていますので、皆さんも一緒に検証しましょう。

(1)雨量

図①、図②をみてください。

じっくりとみてください。

これは7・4水害の球磨川水系の24時間雨量です。
青、緑、黄、赤の順に24時間雨量が200～300、300～400、400～500、500ミリ以上の範囲で増えています。

川辺川上流の五家荘の葉木川・樺木川の雨量が相対的に少ないのが分かります。

少ないといっても葉木川の流量も莫大で私が今年、尺イワナを釣った溪流は土砂で跡形も無く、姿も一変していました。溪流兩岸2メートル上の植物・土砂もはぎとられ、今回の洪水の爪痕を残していました。

雨量が相対的に少なかった葉木川でさえ、このありきまですので図①の赤・黄の球磨川支流、

小サデ川、鳩胸川、胸川、山田川、永野川、鹿目川、万江川、馬氷川、小川、鶴川、奈良川、芋川、中園川、竹の

驚くべき9時間350ミリの未曾有の豪雨。

五家荘葉木川・樺木川流域は150～180ミリだったが、小川、万江川、山田川流域の9時間雨量は450ミリ以上でした。

多くの球磨川流域の人吉・多良木・一武・渡水位観測所が測定不能になったのも納得です。

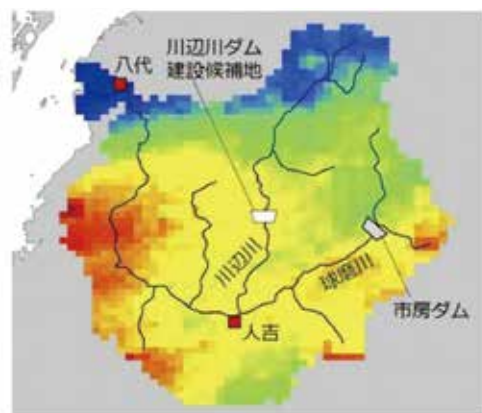
梅雨時の線状降水帯は西から東に移動します。

つまり球磨川下流ほど洪水がはやく発生します。

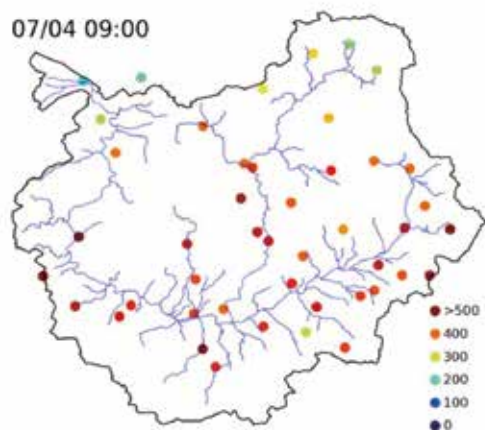
加えて川辺川ダム予定地（相良村藤田）から上流の水が球磨村、芦北町、八代市坂本町までに到着するまで少なくとも2時間30分～3時間30分はかかります。

川辺川上流の雨水が届く前に、球磨川下流の球磨村渡、八代市坂本はすでに洪水が発生していました。いかに球磨川中流・下流の支流の流量が多かったかが分かります。それを図①・図②から確かめてください。

じっくり図①・図②をながめてください。



図①：球磨川水系の24時間雨量



図②：観測所の24時間雨量

(2)最大洪水流量(最大ピーク流量)

国土交通省(国)は7・4水害の人吉地点の最大洪水流量は、

7500トン/秒

と言っていますが、本当でしょうか？

(是非とも、計算方法を公開してほしい)

国の言う人吉地点は、水位計のある人吉城址・「梅花の渡し」(人吉市中心町)です。

7・4水害ではこれも測定不能になりました。

私は人吉地点を少なくとも胸川、山田川の流量をふくめる下流の人吉旅館前にすべきだと思います。

川辺川ダム計画では、球磨川本流と川辺川合流点の流量で川辺川ダムの効果を計算し、それより下流の小サデ川、鳩胸川、胸川、山田川の流量を無視してきました。

確かにこれまでは支流の流量は少なかったので無視しても問題はなかったのでしょうか。

しかし7・4水害の私の外山胃腸病院の水はすべてが山田川からでした。

私の住居のある蓑野町の蓑野公園前を流れる胸川の大井手橋付近も越流寸前の水位でした。

大井手橋のピーク流量($Q=V \times t$)を概算すると約750トン/秒の史上最高を記録しました。

●もし越流が無かった場合の人吉旅館前の球磨川の最大洪水流量はいくらになるのだろうか？

これを検証しよう。

あなたも検証してください。

(専門家の先生も、是非お願い致します。)

これは流域面積と雨量から計算(類推)できます。

四浦上流の五家荘の樅木川、葉木川、小原川の雨量が球磨盆地の雨量に比べて相対的に少なかったため、相良村四浦より下流は雨量補正1・11〜1・25が必要。

表①をみてください。

人吉旅館前の球磨川のピーク流量($B+C+D$)は、 $9736+2400=12136$ トン/秒になります。

国の類推した今回のピーク流量7500トン/秒を5100トン/秒もオーバーします。

国の試算では、人吉地点の河道は4000トン/秒(私の試算では5500トン/秒)しか流せないで簡単に越流します。

越流すると、ピーク流量はもちろん下がります。

今回の7・4水害で、午前7時〜8時の人吉地点のピーク流量(水位計による計算)が想定以上に少なかったのは「梅花の渡し」の水位計の上流の人吉リハビリテーション病院前で、すでに多量の越流が起っていたからです。

表②を見て下さい。

4つの支流の流域面積と雨量から、ピーク流量を概算しました。

球磨川と川辺川の合流部から、人吉旅館までの4つの支流の合計流域面積は250K平方メートルにもなります。川辺川ダム予定地より上流の流域面積470K平方メートルの

表① 球磨川各地点のピーク流量

	流域面積 (平方km)	雨量補正	ピーク流量 (トン/秒)
相良村四浦 A	491	1.0	3750
(合流部まで	42	1.1	376)
川辺川合流部 B	533		4226
球磨川合流部 C	586	1.2	5511
合流部合計 B+C	1119		9736
(人吉旅館まで D	250	1.25	2400)
人吉旅館前	1369		12136

表②：合流部から人吉旅館までの各支流のピーク流量

小サデ川	525トン/秒
鳩胸川	525トン/秒
胸川	750トン/秒
山田川	600トン/秒

半分以上です。

4支流合計ピーク流量2400トン/秒も無視できません。

しかも、国の川辺川ダム計画では、この4つの支流の流量を考慮しないのも問題です。

私の外山胃腸病院の浸水の原因は、ほとんど山田川からの水でした。

2008年以降、国は12時間雨量が262ミリの場合の最大ピーク流量を7000トン/秒と想定し、ダムで3000トン/秒カットと計画。

では9時間雨量が350ミリの場合の最大ピーク流量はいくらになるのでしょうか？

国の言う7・4水害の7500トン/秒は信憑性があるのだろうか？

非常に大雑把は計算ですが、(誤差もあるでしょうが)

最大ピーク流量 $Q=7000 \times 350 \div 262 \times 12 \div 9$

$=12468$ トン/秒

では次の計算方法で最大ピーク流量Qはいくらになるのか検証しましょう。

できるだけ多くの方法で最大ピーク流量を検証したほうが良いでしょう。

2005年の洪水の時の人吉地点のピーク流量4271トン／秒水位4・16メートルを利用します。

7・4水害の人吉橋中央に設置された危機管理水位計の7・75メートル（越流があつたのでこれより水位は高いはず）から最大ピーク流量Qを概算します。

$Q \parallel A \times V$ （下記参照）

水の粘度n、河道の勾配Iは一定と仮定すると、今回の人吉橋のピーク流量は少なくとも11739トン／秒になります。

あなたも頭の体操と思って計算してみてください。

これに越流分を加味すれば、最低でも10000トン以上さらに大きな数値になるでしょう。

（国や専門家の先生、越流分を加味した氾濫戻しをしたら最大洪水流量がいくらになるのか、是非お願い致します。）

次は1982年7月25日洪水時の人吉地点の

最大洪水流量 5372トン／秒

水位 4・60メートル

を利用して、今回のピーク流量を計算してみると、

最大ピーク流量 $Q \parallel 12429$ トン／秒

もし●越流がなかった場合の人吉旅館前の球磨川のピーク

流量は●越流が無かったと仮定した場合、人吉旅館前の球磨川の最大洪水流量に

永野川	▶ 200
鹿目川／草津川	▶ 280
馬氷川	▶ 240
万江川	▶ 2000
小川	▶ 350

合計 3070トン／秒が加わります。

もう、ダムや堤防では、まったく太刀打ちできない莫大な流量です。

渡地区の多くの住民の実感も同じです。

「治水の概念」を根本的に変える必要性があります。

最後に、仮に川辺川ダムがあつたとしたら、（仮定の話ですが）氾濫時に川辺川ダム緊急放流のリスクはなかったのだろうか？の検証です。

紙面の都合で詳細は省力しますが、結論だけをいえば7・4水害の時に、氾濫時に川辺川ダム緊急放流の可能性は50％以上の確率だつたと推定されます。

少しでもダム操作をあやまれば、この確率はいつきに跳ね上がります。（愛媛県肱川のダム放流がよい教訓です）

流量は、

- (1) 流域面積と雨量からの概算
- (2) HQ図（水位・流量図）からの概算
- (3) 越流した水量からの概算
- (4) 流量 $Q \parallel A \cdot V$

A…可道断面積

$V \dots \text{流速} \parallel 1 / n \cdot R (2 / 3 \text{乗}) \cdot I (1 / 2 \text{乗})$

(n…粘度、R…潤辺長、I…勾配)

からの概算（ただし正確な水位がわからない。真実を知るなら氾濫戻しが必要）

紙面の都合で(2)・(3)の計算法は省略しましたが、(1)・(4)のいずれの概算でも11700～12900トン／秒になります。

概算とは言え、4つの概算が、ほぼ一致するので、かなり信憑性はあります。

人吉旅館前の最大ピーク流量は、国の言う7500トン／秒より4500トンも多い約12000トン／秒のほうが信憑性は高いようです。

それは私をふくめた今回の多くの水害体験者の偽らざる実感でもあります。

もう川辺川ダムでは、とても太刀打ちできない流量です。

因みに千寿園のあつた球磨村渡の小川前の球磨川のピーク

それは7・4水害ではたった7時間で川辺川ダムが満杯になる雨量だつたからです。

仮に五家荘葉木川・樺木川流域が他の流域なみの雨量だつたら、たった4～5時間で川辺川ダムが満杯になって、ダム緊急放流は必発だつたでしょうね。

確かに相良村はダムによる洪水軽減効果は著しく、人吉市も最大洪水流量を最大21％は軽減しますが、

（●人吉市の氾濫は防げません。）

その軽減効果よりも氾濫時の川辺川ダム緊急放流の被害確率のほうが、はるかに大きいのです。

さらに球磨村渡より下流では軽減効果は全く期待できないだけでなく、

氾濫時の緊急放流の被害を心配しなくてははいけません。もちろん、無用のダムができれば、清流・川辺川がなくなり、ラフティング・川下り・アユ釣りの姿もなくなるでしょう。

川辺川ダムを議論する以前に、

水のはけ口をふさぎ、洪水を増幅させた瀬戸石ダム（芦北町）の撤去こそ、早急に実施していただきたい。

瀬戸石ダムが無くなれば、天然アユもふえるだろうなあ。

【きべ・あきひろ／人吉市】

今回の20・7・4球磨川水害に向けて

熊本産業遺産研究会 松本晋一

55年振りの大水害で、人吉の街球磨川流域の多くが被災しました。このことは、次の新しい地域の町おとし、村づくりにも大きな影響を与え

ることでしょう。人吉のこれからを考えるにあたり、球磨川との共生としてこの街づくりの参考材料として、元週刊ひとよし代表・伊勢戸明氏が書

かれた「川を語る・球磨川の暮らしと文化」という文章をご紹介します。併せて「文学の中の球磨川」の紹介もさせていただきます。これらは23年前に十島文庫開設記念シンポジウムの時の抄録集を元にしたものです。(2020・9・15)

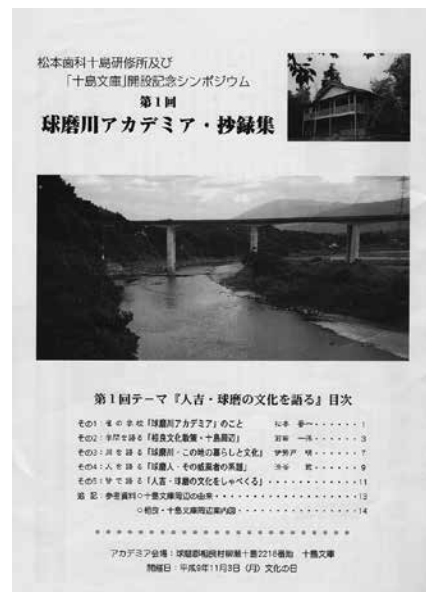
「球磨川の暮らしと文化」

講師 伊勢戸明

Ⅱ第1回「球磨川アカデミア」報告
川を語る(平成9年11月3日)よりⅡ

球磨川が育んだこの地域の文化、経済の変遷については、去る七月増補改訂され発刊された前山光則氏著の『球磨川物語』に、多種多彩

に紹介されていて、これに追加しなければならぬほどの資料も取材も持ち合わせ



第1回「球磨川アカデミア」抄録集



シンポジウムで語る伊勢戸明氏(1997年11月3日)

恐れを感じている。

「母なる川」と呼び、計り知れない恩恵のもと、山を拓き田を耕してきた球磨の山村住民にとって、川は常に自らの生活そのものであったろうから、川の恵みと同様に川の恐ろしさもまた熟知し、川に馴れる暮らしを最優先して、川に逆らうことを「畏れ」ていたはずである。

その川を技術と財力で制御しようとし始めたところから、川と人の関わりが変質してきた。特に戦後、荒廃した山林の手当てのないまま、河川行政の名で、いくつもの開発プランがメニュー化された。堤と遊水池をつぶして土地を分け合い、流れを狭め、流路を変えするという人工水路が「効率」の名で続出した。その結果、川から人の営みが次々

と姿を消した。いま川下り以外の船は数えるほどだし、稚魚を放流しなければまかなえない川釣りに将来が期待されるはずはない。人工水路と化した川から子供は締め出され、川に遊ぶ家族の姿を見ることが稀になった。

少しの雨でも一挙に膨れ上がる水かさの、その水質の汚染は、かつて「自分の水は自分で責任を持つ」とを誇りとした球磨の民には、想像だにしなかった激変だろう。

ともあれこのままでは、これまで球磨川が育んだ文化、そして暮らしの経済が、郷土史に記録されるだけのものになるかも知れないという懸念を抱きつつ、球磨川が生んだものを概括し、参考までに、文学の中の球磨川を思いつくまに並べてみた。

一、球磨川の開削による舟運

球磨川とその水系での舟運が、かなり昔から、小規模、そして局地的に行なわれていたことは、当然だが、本流での本格的舟運は、流路に散在する巨岩や急峻に阻害され、特に人吉から八代までは長く船を寄せ付けぬままに十七世紀を迎えている。

歴史的に見て十七世紀の日本は、江戸幕府による幕藩体制が確立し、各藩が競って殖産振興に策を練ったいわゆる経済成長期と合致し、球磨の二大利水、百太郎、幸野両溝の着手・完成もまたこの時期であることも、これを裏付ける。

人吉の商人、林正盛による球磨川の開削も、それが、今という公

共事業ではなく、民間の先行投資であったことは、また別の角度から

考証しなければならない経済史だが、ともかく寛文五年（二六六五）の球磨川開削は、以後の人吉球磨の政治経済を急変させ、社会文化にも大きな影響を与えたのはいうまでもない。ところで、最近、川辺川の開削記録の一部が明らかになったが、これが明治二十四年の、それも八代在のやはり個人の事業であることは興味深い。川辺川に対して、相良藩は、維新後の新政府は、人吉の商工業者は、そして肝心の沿岸住民はどう対応したのか。なぜ開削・改良を放置してきたのか。新しい命題の登場である。

二、球磨川の利水

百太郎溝（全長十九^キ、灌漑面積千四百^{ハシ}）と幸野溝（全長十五^キ、灌漑面積千二百^{ハシ}）は、ともに十七世紀後半に完成した人吉盆地の大水道である。

二つの溝の完成、通水による恩恵は、単に農業水利にとどまらず、球磨川南部の上球磨、中球磨の生活条件を飛躍的に向上させ、無論、相良藩の財政に大きく貢献した。二つの溝をはじめ、以後四通八達した水路開削にまつわる各種秘話は、水との戦いが農民にとって如何に大事であったかを教えてくれる。

三、球磨川の今

球磨川は今、病み疲れている。ダムによる流路の変化は昔もあった。流れを一時的に塞ぎ止めることで、水力を活用する知恵は、そのまま文化として評価できることだ。

しかし、川を川として機能させないほどの一体系を破壊してまでの人工制御が、これほどの川の衰退につながること、どうして気付かなかったのか。核兵器に辿り着いた科学の進歩と軌を一にした人間の驕りを今謙虚に認めつつ、球磨川の現状を厳しく点検すべきである。

今の球磨川が、いかに人間を遠ざけているかを示す例証は数限りないが、たとえば、昭和四十年前後まで、人吉球磨のどの小中学校の夏の水泳

場は、川だった。が、学校プールの整備もあつて、川での遊泳禁止が常識となり、三年前のデータだが、球磨川

本流での遊泳を許可している学校は皆無だった。さすがに清流を保つ川辺川のある相良村、五木村は川での遊びが認められ、球磨村や水上村では支流での川泳ぎが今も許されている。

四、これから課題

球磨川をめぐる問題は、以上のほか数限りなくある。それだけに「球磨川」についての教育と学習は、定期的かつ意欲的に展開されなければならない。それはかつて郷土文化誌「人吉文化」を主宰した種元勝弘氏が提唱し私財を注ぎ込んで実践した「郷土学習」であり、川とともにある生活の復興、つまり環境問

題に取り組むことでもある。

川を守ること。それは山を守ること、木を守ること、山村の暮らしを守り、人を守ること、だから。

× × × × ×

文学の中の球磨川

万葉の昔から、球磨川は、多くの旅人、文化人によっていくようにも歌われ、読み込まれてきた。以下、そのいくつかをあげてみるが、古き良き時代の賛歌ととれるものばかりが目についた。今、どう詠まれどう批判されているか、が私に課せられた考察の命題のように思えるが、それは今後の宿題とさせてほしい。

夏来れば流るる麻の木綿葉川誰れ
水上にみそぎしつらむ

藤原 家隆

ふたたびも訪ね来にけり球磨川の
水 瀬音やわれをひくらし

田山 花袋

濁りなき球磨の流れに澄む月は波と
砕けて光とぞなる

新渡部稲造

山かげの舟は灯を置く我が舟はな
ほ月を置く川の中ほど

与謝野 寛

人吉や蜀の成都の人とある舟の上と
も思わるるかな

与謝野 晶子

みぎわには冬草いまだ青くして朝の
球磨川霧たちのぼる

斎藤 茂吉

球磨川の浅瀬をのぼる蘆舟は燭奴の
如き帆をみなあげて

長塚 節

「烟霞勝遊記」 徳富 蘇峰

「球磨川はその流域十六里にして
嶮を出て夷、夷を出て嶮、その変
化は少なくない。(略) 特に奇なる
は石の皺だ。石の筋だ。石の骨だ。
一魂石も、一巨巖も、何となく個人
性を具有したる趣がある。南画を
学ばんとするものは、此処に來たり
て余師ありだ」

「日本一周」 田山 花袋

「人吉は私の好きなどころだ。想
像して來た以上に私を喜ばせたの
は、この町である。山の中の河港、
そういうところは至る処にあるけれ
ども此処ほど風氣に富んだところ
は多くあるまいと私は思う」

「九州の旅」 長与 善郎

「球磨川の溪流は美しかった。そ
の翠りの溪流の中に細い笹葉の如く
浮かんでいる釣り舟と、鋭い線の釣
竿を垂れている漁夫のいろいろの形
も面白いと思った」

「街道をゆく・肥薩の道」

司馬遼太郎

「枕もとの淡い灯影でその地図を
広げてみると、地図が精緻なだけに、



シンポジウムでの伊勢戸氏、前田一洋氏、渋谷敦氏
(1997年11月3日)

いよいよこの小盆地の地形が物凄く
思われた。四方八方の山間部から
無数の溪流がこの球磨川上流の小盆
地にひたひたと流れこんでいるので
ある。その水勢のとどろきまでが地
図から聞こえてくるようで、ひとた
び大雨が集中すれば人吉盆地が湖

になるといのは、自明のことのよ
うに思われた」

「まことに相良氏というのはおも
しろい。江戸期の大名の家系では最
も古く、鎌倉の源頼朝からこの盆
地をもらい、室町期を生き、戦国
期を経て江戸期も安泰で、明治維
新に至るまで六百七十年つづいたと
いうこの家系のめでたさは、本来人
吉盆地のめでたさといわねばならな
い。相良氏にあつては、歴史の目を
そばだたせる英雄豪傑というものは
出なかった。英雄がこの家系を持続
させたのではなく、人吉という地理
的事情がこの家系を持続させた。そ
のあたり、なにやら世界史における
日本列島の運命に似ているように
思われる」

(1997年11月3日)

ご案内

第12回「球磨川アカデミア」を2020年10月17日(土)午後と同
18日(日)に開催予定です。

テーマ:「寅さん・人吉へ!」=寅さんに学び、寅さんと遊ぼう=
・山田洋次映画資料展示会、山田監督映画、寅さん映画DVD上映(17
日・18日)
・フォーラム「皆で語ろう、寅さん・人吉へ!」(18日午後)
=球磨川の明日・人吉の未来・これからの夢=
フーテンの寅さんの視点で、被災した人吉の街の観光回復に向けて皆で語り
合いましょう。

会場: 相良・十島文庫(松本歯科十島研修所) 参加費: 500円(資料代)

坂本工場関係資料 ⑧ 創業当時



創業当時の工場幹部従業員。東肥製紙のマークはテントの一部か？
中央ヒゲの持ち主が安場末喜技士長兼工場長（紙の博物館所蔵）

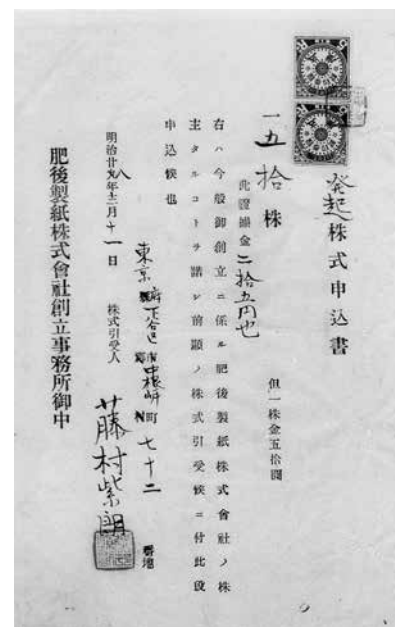


藁精撰場 藁を束ねる女工たち



破布精撰場。当時の紙には主に藁と破布が原料として原料として使用されていた

初代表藤村紫朗の発起株式申込書。
明治28年12月11日付の時点では、
社名は肥後製紙株式会社となっている



「ま坂」の道を歩みつ

吉岡弘晴

2020年7月4日（土）の朝7時頃、玄関から水が入ってきた。外はもの凄い雨。アツという間に床上まで水が上がってきて、30分後には胸の高さまで。畳が浮き上がり、台所の冷蔵庫が音を立ててひっくり返った。押し入れの上段まで水がきて、パソコンとプリンターも水没した。うちよ銀行のカードや医療保険証の入った財布、ケータイ、USBメモリーは洗面台の上の棚にあげた（らしい）。この動作は記憶していない。ある人は玉ねぎを抱いて避難したという。仏壇を持って避難したという人もいた。

わが借家は球磨川よりもだいぶ遠い

所にあり、まさかここまで浸水するとは思ってもよらなかった。だから青井阿蘇神社の近くに住んでいる独り暮らしの知人に午前4時頃、私の家に避難してもらったくらいだ。ところが、氾濫した球磨川の濁流がもの凄い勢いで窓の外を流れていく。途中、廊下にあった椅子の上に立って水の引くのを待った。午後3時頃、やっと外に出ることができた。ずぶ濡れの姿で知人の家がどうなっているかを見に行ったが、まだ水没していて消防隊がゴムボートで屋根の上にいる人達を救助に行くところだった。

次の朝、見に行ったら家がべちゃんこに潰れていた。だから知人は一時行方不明者の一人にカウントされていたらしい。4日午後4時頃、毎週日曜日に「聖書」の勉強に通っている葦野町の「ともしび聖書チャペル」の井上温章牧師にSOSの電話を掛けたら、すぐに車で迎えにきてくださり、教会横の集会所に泊めてくださった。ここは夏休みに子供と保護者たちがキャンプにきて宿泊まりする施設で、ホテル並みにいろんな設備が揃っていて2週間、快適に過ごすことができて助かった。その間に松崎義治牧師をはじめ恵利也くん、熊本から共産党のボランティア6人の方が我が家の畳や粗大ごみを運び出し、廃棄物処理場まで運んでくださった。本当にありがたかった。

その晩、キリスト教関係のボランティアの人たちが泊まることになったので、7月19日、高台にある人吉西小学校の講堂兼体育館の避難所に移った。

漢和字典は面白い

36

鶴上寛治



痛くも痒くもないのに瘡が出る。

医師の検診を受けると疾病ありと。体の一部が所有者の意思に関わらず体外に出て行くのだから、これは危険信号！タンはタンでも健啖家——「啖」

はへさかんに口にする・くらうで、大食い、つまり大食漢のこと。この「漢」は悪漢・正義漢と〈男性〉のこと。よく似た「啜」は〈すする〉で、綴と同じく〈つながる〉の意。啜・鍛・みな繋がっている。痛・痒・痰みなヤマイダレというあまりありがたくない名の部首だが、その中に一つだけ明るい光明を灯す漢字がある。それは「瘡」。病がへいえる・直る・治るの。だ。平癒・治癒・快癒——おめでとう。しかし癒着という熟語もあるぞ。——ウーム？辞書には〈皮膚・膜などが（炎症のために）くっついてしまうこと。権力・組織に必要以上に依存する。〉とか〈分離しているべき組織面が繊維製の組織で連結融合すること。比喻的に、本来あるべきでない者同士が深く手を結び合うこと（官界と政界の癒着）。——関西電力と原発立地自治体、やっぱりの字もヤマイダレが最適の居場所だったか。

の管理をされている。熊本地震時の避難所での経験を積んだ職員も多く、みなさんとても親切である。

私にとっては3食昼寝付きの贅沢な暮らしで、国民の税金で生かしてもらっていて、申し訳ない感じた。だが、避難所には自分の家に住めなくなった人も多く、今後の生活再建のめどが立たない人も多い。

私も市営住宅の空き家抽選に応募したが、第1次では1番遠いで落選。第3次の抽選で見事当選。高台にあるホテル華の荘の近くにある団地の3階の部屋だった。下見に行ったら6畳2間と4畳半、6畳ほどの台所・風呂・トイレがあり、独り暮らしには勿体ない位だった。が、坂道で近所に買い物をする店がなく、車の免許を持たない私には不向きなことが分かり、キャンセルせざるを得なかった。

次に施設型応急住宅に申し込んだが、最も優先度が高い世帯として、障害者などを抱えている世帯や、小学生や中学生以下の子供のいる世帯などを優先的に選定するとあり、私みたいに75歳以上の高齢者で独り暮らしの身には狭き門である。球磨川べりの温泉旅館を早く改修して避難所に利用するという計画もあるようだが、どうなるか……。

人吉球磨地方に読者が多い地元新聞のコラムに「人生には三つの坂がある。一つは上り坂、二つ目は下り坂、そして三つ目は、ま坂だ」と書かれていた。私にとっては、まさに「ま坂」の出来事だった。この坂をどう歩んでいくか、どれだけお金を積んでも買えない、この得難い体験をコツコツと記録していこうと思っている。あなたも「ま坂」に気をつけてくださいな。

【よしおか・ひろはる／人吉市】



音はダンで、訓はない。他の平らな所より一段高くなっているところ。基壇・祭壇・演壇・教壇・花壇・仏壇……。その他、文壇・俳壇等々、他の有象無象ともより一段高い所にいると自覚しているのか、本人はこの言葉を好まないのに他者が名づけたのか。中国で天壇・地壇と自然（＝神）を祀っている壇とは、ちよつと異なる同業組合みたいな日本の「壇」だ（すべてではないが）。



音はテイ、艦とか船とは異なつて、軽快で速そうな感じがする。なぜだろう？モーターボートレースは競艇と訳され、悲しいかな公営の賭博の材料にされ、不幸な人々を生み出している。競技に命を懸けて日々精進しておられる選手の方々には何の罪もない。八百長とは無縁だと思いたい。旧海軍ではタンテイと読んでいたようだ。何、それ？短艇か端艇だろう。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

ひまわり…

げっかん・ぎびょう



— 7年8カ月の安倍政権から菅政権へ —

政権のモラルの低下、コロナ対策と経済の行き詰まった安倍首相の辞任を受け継ぐ菅首相。安倍政権とあまり変わらない内閣人事、国民の不安が払拭されるか。

外来語から学ぶ英単語 (53) …… 藤原 宏

トランス (ズ) trans —

trans (トランス・トランスズ) は「(…を) 通過して・横切って・越えて・貫いて・変換して・向こう側に・別の場所へ」などの意で、多くの合成語をつくります。

transit (トランジット) … (空港での) 乗り換え・乗り継ぎ (搭乗券)
transfer (トランスファー) … 移転・移動 (する)、乗り換え (る)、乗換切符
transform (トランスフォーム) … 変形・変換する (させる)
transformer (トランスフォーマー) … 変形させるもの・変圧器、トランスは和製
transport (トランスポート) … 輸送・運搬 (する)
transcription (トランスクリプション) … 写し・転写・写本・録音・録画
transcontinental (トランスコンティネンタル) … 大陸横断の
transmitter (トランスミッター) … 送信器・送話器
transmission (トランスミッション) … 伝達・伝動・変速装置
tranceiver (トランシーバー) = 「transmitter + receiver (レシーバー) 受信機」、送信受信共用の音声無線機

(420)

球磨川大災害 「鎮魂と再興を祈る」

富永和信

今夏、球磨川流域を突然襲ったゲリラ豪雨は、人智の想像をはるかに越える大災害をもたらしました。

球磨川のほとり、湯気がたなびく山紫水明の静かな街の人吉の市街地全域が、球磨川の濁流に冠水するなど、誰が想像したでしょうか。

とりわけ多くの尊い人命が犠牲になられたことは痛恨の極みであります。さらに、地域にとつて大事な公施設や、個人の貴重な家屋や田畑などの被害はとどまることを知り得ないのであります。今後、これらの復旧・復興は如何なるでしょうか。

県外に在する身として何ら為すすべもなく、過酷化する異常気象とコロナ禍のもと、困難な再生復興が一日も早からんことを、ただただ祈念する外はないのであります。

自然災害は「時」と「場所」を選ばずという。それにしても近年とみに話題も活気も少なくなった我が故郷に、いささか歯がゆい思いをしているところに今回の思いもよらぬ災害であります。この歴史的に由緒あるふるさどが、このような理不尽な仕打ちを受ける所以^{ゆえん}などある筈はないと勝手に思っていたのであり

ます。
私の人吉高校五回生の旧友二人が不幸にも犠牲に遭い、亡くなりました。その訃報を知ったとき不謹慎にも、この世には神仏のご加護など無いなどと思わざるをえませんでした。

旧友二人の最期を思うとき、どうして避難出来なかったのか、泥水の中でどんなにか苦しかったろう、そしてどんなにか孫や子供、愛する人に会いたかったろうと思ひ察し、残念で涙する外はありません。

今はただ、「友よ、愉しかった若き日の思いを抱いて安らかに眠れ」と、ご冥福を祈るのみであります。 合掌

【とみなが・かずのぶ／山口市】

倉敷便り

43

絵と文／原田 正史

藤戸寺（倉敷市藤戸町藤戸）

倉敷市の南東部にある藤戸地区は昔、瀬戸内海の北側に広がる小島が点在する海の中にありました。今からおよそ800年ほど前、天下を取っていた平家に対して源氏が戦を挑んだという源平合戦が全国各地で繰り広げられました。倉敷市藤戸地区でも寿永2年（1183）、現在の玉島と思われる海域で「玉島合戦」がありました。藤戸には、この戦で先陣して功績をあげた源氏方の武将佐々木盛綱が修復したと

される藤戸寺など、源平合戦にまつわる古跡が数多く残されています。

寿永3年の「藤戸合戦」では、海を隔てて源平両軍が対峙し、児島側の平家軍は平行家を大将として殿山・正盛山に布陣し、対岸の高坪山に拠る佐々木盛綱、日間山に拠る梶原景時らの源氏の軍勢を扇で招いて挑発しましたが、水軍を持たない源氏軍は、手の出しようがありませんでした。ところが、佐々木盛綱は、この土地の若い漁師から両軍を隔てている海峡に一筋の浅瀬があることを聞き出したのです。12月6日の夜、部下を引き連れ浅瀬

を押し渡った佐々木盛綱は、思いもかけぬ敵襲にあわて逃げ散る平家軍を徹底的に打ち破りました。この先陣の功によって、源頼朝から児島の地を与えられ、その子孫は加地、田井、飽浦の三氏に分かれ繁栄したと伝えられています。

ところで、佐々木盛綱が先陣の功を上げた夜、海の岸边に一人の男の死体が漂っていました。なんとそれは浅瀬の存在を教えてくれた若い漁師だったのです。実は、他の武将たちに浅瀬の存在を知られることを恐れた佐々木盛綱が、口封じのために殺害したのでした。このことを知った若い漁師の母親は、盛綱の行為を恨み、「佐々木憎けりや、笹まで憎い」と言いながら、狂ったように笹を引き抜いたといわれ、その怨

念のためか、その後、この山には笹が生えず、笹無し山と呼ばれていました。

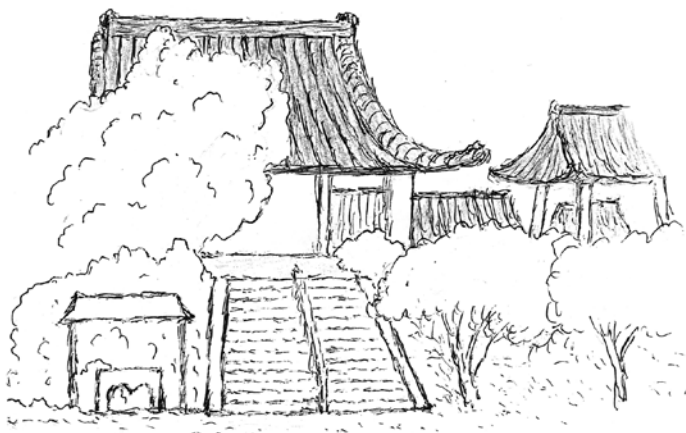
私も「笹無し山」と書かれた小さな立て札があるこの場所を、オリーブ・ガーデンの送迎の際、何回も通ったことがあります。そこは山というより低い丘で、一面に笹が生えていました。長い年月の経過で、母親の怨念も消えてしまったように思われます。

令和2年5月4日、倉敷市藤戸の藤戸寺を訪れました。

藤戸寺は種松山（257・9m）の北麓にあつて、周囲を高い石垣で囲まれ、周辺の平坦地よりも高い台地の上に建っており、ここが多島海時代の島だったことを物語っています。したがって周辺の低平地、すなわち現在の水田や集落、あるいは

道路などは海だったことになるのです。藤戸寺を間近で見ると、40〜50段ほどの幅広い石段を登らねばなりません。しかも傾斜が急なので大変です。ところが有難いことに、中央部に金属製の手摺が設置されており、これに掴まって登ることが出来ました。石段の上に本堂があり、左手には鐘撞堂があります。

本堂は建物としての構造が、風変わりなものとなっています。右側は屋根が長く突き出ているのに、左側の樹木に隠れた部分は突き出しておらず、平坦です。左側の敷地は広くて十分な余地があるのに、左右対称になっていないのは、資金が不足したために、左側は未完成のまま工事が打ち切られたものと思われる。いずれにしても本堂は、通常見



藤戸寺（20.5.24）

ることのない構造になっています。
なお本堂左手奥では、釈迦が亡く
なつた時に植えられたとされる沙羅^{さらか}
双樹^{そうじゆ}が見られるとのことでした。し
かし時間がなくなりその沙羅双樹
を見ることは出来ず、後ろ髪を引か
れる思いで帰路につきました。

末尾になりましたが、今回の郷
土の大災害に際しまして、尊い命を
亡くされた皆様のご冥福を祈りま
すと共に、心的・物的な被害を受
けられました皆様にお見舞い申し
上げ、復興の一日も早くからんと祈念
する次第です。

【はらだ・まさふみ／日本地質
学会会員、倉敷市】

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

病名^{あやだ}を証立^{あやだ}する診断書提出もなしに病氣辞任とは

ごまかしと嘘で固めしアベ政治どこまで真か「持病再発」

柳原 三男

サルスベリ枝重たげに花房は風にまかせて右に左に

草むらに朝露のせてひるがおの青爽やかにつゆ草もまた

坂本 ケイ

久々にシヨートステイより帰れば夫は笑みて抱きしめくれる
朝夕に夫水やりし朝顔は今盛りなり酷暑に耐えて

上田 迪子

川のみか山も牙剥き民家呑む住みにし人の悲痛の叫び

メキメキツと音立て鉄橋流出す 赤橋と呼び親しみたるに

上田 精一

※八代市坂本町の光永顕彰さんの被災手記を素材にして詠んだ連作の中の一首

ある教師の出征の記録

万年二等兵②

尾方豊水

五、揚子江

前線への出発ということになった。相当大的な汽船に
のり込むことになった。急流とまではいかぬにしても、
河幅の広いこと、水量の多いこと、全く驚嘆に値する。
南京のあたりで川幅が二百米近くもあるだろう。

「河に落ちて助かった人が居ない程無気味な河だから
お互いくれぐれも注意する様に。」との厳達があった。

夕闇ともなると輸送船は揚子江を遡るのである。夜だ
けの航行である。昼間は空爆に見舞われて極めて危険な
のである。

相当激しい空爆であったとみえて、揚子江の河面にマ
ストだけ突き出して、沈没している船も見受けられるよ

うになった。

夜は航行、昼は待避のパターンが何日続くやら、どこ
まで遡るのやら、全く見当がつかない。

地名はわからないが待避のための上陸地点で珍しい風
景に出合った。いささか単調さにあきあきしていたので
物珍しさもあり一服の清涼剤であった。

というのが粗末な民屋の建ち並ぶ一寸した広場で、何
が原因かわからないが男の子が喧嘩をはじめた。はげし
い口争いである。すると家の戸口から火吹き竹を提げて
出て来たのは子どもの母親らしい。両方とも話し合った
ように火吹竹を持っている。何といっているのかよくわか
らないが、両方とも凄い剣幕で早口でののしり合うので
ある。こりゃたき合いがはじまるかなあ。両方とも疲
れたのか、どちらからともなく鉾を収めて幕切れとなつ
た。変な言い方だが期待はずれに終った。時のたつのも
忘れてしまう一時であった。

遡^{さく}航何日目だったろう。朝の点呼で一人の戦友が姿を
消したのである。船内をくまなく探したが見当たらな
い。夜中に便所起きの折に誤って河に落ちたのだろう。

ということであった。再び厳しい達しがあった。夜中じゅう河を遡っているのに何とまあ揚子江という河のバケモノ的存在に驚くばかりである。

最終日的地の武昌ふしやうに着いて、ここがあの武漢三鎮として名の通ったところだということがわかった。

何処へ向かうのだろうか？ またまた貨車に詰め込まれてガタゴトゆられて着いたところが岳州がくしやうである。

六、行軍①

ここで一泊大休止となった。いよいよ一人前の装備が整えられた。今までの背のうの重量とは比較にならない。

小銃弾、衣料、日用品、米、副食物、等々。

小生のような小さい体格の持ち主には、とても無理である。自分の体力は自分が二ばんよく知っている。完全装備の背のうを背負ってみたが一人では立てない。戦友に手伝って貰ってやっと立ち上がれるくらいの重量である。

そこでじつと二人で考えた。一番量目のあるのは靴下何本かに詰め込んである米である。この米を減量する以外に

たのである。

ずつしり重い背中の米を捨ててよかった。これで何とかなるぞ、もつぞと思いつながら行軍を続けた。

夕べ樹木にしばらくつけられていた土民が使役に使われている姿を見た。重い荷を天秤棒でかついで従軍させられているのである。傍に七、八才の女の子が父親を呼びながらついて来て居たが、いつの間にか姿が見えなくなった。これが平常時なら、ただではすまぬ出来事である。

途中とんでもない大きな湖が眼前に展開された。洞庭湖とうていである。洞庭湖といえば天草の二江小学校に勤めて三年目、高等科一年の国語の教科書に洞庭湖という題目でくわしい文章が出ていたのをふと思い出した。

行軍は昼夜を分かたず続けられた。

大休止でもよし小休止でもよい、休止の声を聞くのが何よりも願ひであった。

「大休止!!」

の声が伝つて来た。ホツとしていると、

「只今から徴発に出かける。」

徴発という言葉をはじめて耳にした。実は土地の民家

生きのびる道はないと考えた。夜中に起き上って靴下に詰め込まれた米を持ち出して裏山に登った。米を仕末するためである。何とか背負って行軍が出来るためである。

家の周りの樹木に頑丈そうな土民の男が木を背負うようにしばられていた。六月頃だから蚊が遠慮なく襲う。

それもそのはず、しばられているのだから蚊をおつ払うすべがない。さされるままである。不思議なもので可愛そうだなあ、という心情も湧いてこなかった。自分のこととせいいばいだったからだろう。その夜はぐつすり寝込んだのはよかったが、明くる朝になつて装備の点検があったから、たまらない。米の不足が発覚したのである。ビンタをくつたのは当然であった。

「これから先いつの日か食糧が如何に大事であるかわかる時が来る。馬鹿なやつだ!!」

自分の体力と相談した上の米の処分だったのだから、ビンタなど当然の現象としてあきらめた。

行軍中、背中の重量に耐え兼ねて行き倒れることはあつても、ビンタをくつて打ち殺されることはないと思ひ直つ

に飼っている家畜などをかつぱらつて来いというのである。

徴発の役は運よくのがれた。

一時間もたつたらうか、古兵が打ち殺しただろうと思われる脚をしばらく上げ、さかさにぶら下げた大豚をかついで帰つて来たのである。馴れたもので、その大豚を古兵がまたたく間に料理するのには驚いた。大釜に豚肉をほうり込んで煮込む要領も古兵ならではである。何ヶ月だろうか、こんなおいしい肉を頂くなんて。食べた。食べた。たらふく食べた。世の中にこんなおいしいものがあつたらうかと思つた。

さあこれからが大へん。夜間の行軍がはじまった。真の闇夜の行軍だから、ただ靴音だけがたよりで、おくれなように歩き続けた。

豚肉のたたりがそろそろ出はじめた。腹の具合がどうもおかしい。行軍しながら便意をもよおすようになってしまった。隊列を離れて、どこがどこやらわからぬままに下痢排便の仕末。延々と続く隊列である。

見も知らぬ隊列に割り込んだ。何回排便のため隊列を離れたかわからない。その度にもぐり込みである。

厳しい行軍はとめどもなく続く。

体力の限界に近い状態になりつつある。

ふと変なことを考えた。我が家には四才と二才のかわいい子どもが居る。この二人の子どもをおんぶして歩いているのだ。自分が倒れると二人の子どもも一しよにおさらばだと、心に念じながら歩いた。

何だか責任感にかられた様な心情で元気を盛り返したようだった。しかし酷な行軍は遂に発狂者を出してしまった。

「鉄砲で頭を撃つてくれ!!」

極限の絶叫である。皆同じ心境になっているのだから、不思議とも思わない。自分がいつその様な状態になるかわからない。全く同情する気持ちもさらさら湧いて来ないのである。自分のことでせい一ぱいである。

夜を日に継いでの行軍である。昼は三々五々の隊列でないと空襲がこわい。

疲労こんぱいして来ると、妙なもので空襲を恐れるどころか、空襲を期待するような心境になってしまうのである。というのが戦闘機の爆音が聞こえると必ず、

水でも飲まざるをえないのである。後のことを考える余裕は全くない。

今しがた激戦が交えられたのか、長沙の街は焼野原の様相を呈していた。余燼にくすぶる煙の中を通りぬける様に脚を引きずった。

幅が百米もあろうかという川を舟で渡っている時、超低空の爆撃機の掃射を受けた。

背のうを頭の上にのせて難をのがれるつもりだった。同乗者が十名近くもいたが誰一人傷つく者は居なかった。それでもこわい一瞬であった。

大休止で英気をとり戻すいとまもなく、行軍は続けられた。こうなると隊列を組むなどは考えられない。何回か次のような警告を耳にしていた。

「行軍を続けている道路の両側には敵兵がしのんでいる。隊列から離れると、いつ銃撃を受けるかわからない。そのつもりで行軍を続けるように。」

と。そのことはわかっていても体力、気力が極度に消耗してしまつと、義理も張りもない。死に直面していることさえ考える余裕はないのである。歩くというのではなく、

「待避!!」

という命が下るのである。その間ゆっくり休養がとれるからである。背のうには木の枝を挿し込んで怠りなかったのである。

爆音をとどろかせて低空飛行をする戦闘機に何回も出合ったが、擬装が物をいつてか銃撃を受けることはなかった

厳しい行軍は果てしもなく続いた。こんもり茂った大木の森にさしかかった時、何機だったろうか、物凄い戦闘機の銃撃に遭った。「ダダダダー」「ビシッビシッ」機関銃弾が頭上の葉っぱをふるわす一瞬であった。

戦地へ来てはじめて銃撃のこわさを体験した。

八月の真夏のことで、行軍中のどが物凄く渴く。水筒もからっぽで飲む水も一滴もない。

飲料水といえばクリーク（貯水池）の水か田植えのすんだ田んぼの水しかない。田んぼの水に殺菌薬をほうり込んで、のどを潤した。体によくないことは重重わかつているが、のどを潤すすべはそれしかないのである。

のどの乾きの極限に達すれば水でさえあれば、どんな

足を引きずるといった歩き方で一人ぼっちになってしまうた。

今考えてみるとゾツとする。

あの支那の大陸の奥地で、あたりに人影のない道路に一人ぼっちになってしまったのである。

いよいよもう駄目だ。歩けない。助けてくれる人も居ない。道路わきにうずくまってしまった。そのまま眠りこけてしまった。時間の経過は全くわからないが、天国に行つた一時であった。

「オイ!! コラッ!! しつかりしろ!! 貴様の寝ているところは便所と同じだ。糞だらけだ。糞の中に寝ているようなものだ。起きろっ!! 手ぶらでも歩けないか。装具は持つてやる。」

「ハイ歩いてみます。」

後続の部隊の身も知らぬ古兵にたたき起こされたのだ。二粒も歩いたろうか。もう駄目だ。脚氣らしい。下肢部がむくんで歩く力を消耗してしまった。道路わきにうずくまってしまった。(つづく)

【おがた・とよみ／球磨郡旧岡原村（現あさぎり町）】

追悼

瀬戸致行という人そして私 —— 出会いから別れへ —— ①

人吉高校5期会 東喜代雄

人吉高校生活とその後②

卒業するころ同級生たちは前述の大学の他に東京外語大、大阪医大、長崎大、鹿児島大などにほとんど受験し、受かつていました。瀬戸君は初めから熊本大と聞いていました。彼ならどの大学でも合格できるだろうと思っていたのですが、やがて「医学部」と聞いてなるほどと思いました。

さらに数年後、「産科・婦人科」と聞くのですが、考えてみると人の出生に立ち合い、最も不安な時期の

女性に寄り添い、幼子の成長と健康に示唆を与えるのですから、まことに貴い仕事だと思っています。彼によってどれほど多くの人が安心して出産し（36年間で総計1万5千644人という）、勇気をもらい、希望をもつて人生を漕ぎ出したことか。若い性や家庭教育に発言しているのを見ると、心の壁に触れる彼の真実の言葉によつて、多くの人が励まされ、癒され、元気をもらったと思います。

彼が私たちより1つ年上だというのは知っていました。幼いころ病弱

で1年留年したこと、そのせいで医師志望はご両親との約束であったことを知り、なるほどと思い、もつとも彼らしい選択だと思いました。彼がいつも弱い立場の人の味方になり、思いやりに満ちた日々を送っていたのは、こうした幼少期から積み上げられた家庭の教育と、自己表現だったと思います。

付き合ひのよや

彼の付き合ひのよさはだれもが認めるところでしよう。○○会長、○○委員長、○○世話役：頼まれると断り切れない性格かも知れませんが、それより相手の気持ちがかかるだけに、誠心誠意仕えようという心が先に動いてしまうのでしょう。

人吉、球磨郡市はもとより、熊本、

福岡、山口、東京、関東……どこで

人高5期会、一中同期会を開いても駆けつけてくれました。それも御夫人同伴。忙しきは人一倍なのに、そんなのはおくびにも出さず、当たり

前のような顔をしていました。

2008年秋、人吉一中の同期

会を群馬県で開きました。人吉・

球磨から12人、熊本から7人、和

歌山、大阪組と関東組が12人、2

泊に及びました。1日目は榛名山

の中腹にある伊香保の「天坊」で

開きました。せっかく遠いところ

から来てくれるので、私は群馬県

庁に掛け合い、「地元の民謡八木

節を聞かせてもらえないか」とお

願いしました。その日は地元の同

好会が総出で駆け付け、法被姿で

樽を叩きながら歌い舞ってください

しました。ホテルでは一般客も交

じつて、このサプライズに大喜び、

社長夫人と支配人さんは地元産の

高級ワインを差し入れてください

ました。瀬戸ご夫婦はじめ遠来の

同級生たちに、少しはおもてなしになつたかなと思っています。

2015年11月の高校5期会は、

九段下のグランドホテルが会場でし

た。ここにもお土産を持って夫婦で

来てくれました。2日目はスカイ

ツリーに出かけたのですが、都内で

会つたのはこれが最後でした。

そう言えば彼が学会などで上京

すると、在京5期生リーダー格の

松本彰二君から招集がかかりま

す。ほとんど会場は赤坂の中津留

睦子君（人高同期）の「球磨川」。

新宿にも集まりましたが、銀座は一

回もありませんでした。

☆

最近彼が人吉別院の責任役員、総代を40歳代から努めていたことを知り、親鸞が説く「人生の苦楽を



人吉一中同期会（2008年、伊香保）

問うな。水は方円の器に随い、人は縁に随う」「足るを知る。幸せならざるは不幸ではない。幸せに気付かざることが不幸」など、その教えが全身に流れていたのだと思います。

彼と宗教や信仰について話し合ったことはありません。私は20歳の苦悩のうちに聖書に軸足を置くようになり、彼はそれを知っていて、私なりの生き方を認め、自分なりの超我の人生観をもって交友を続けてくれました。つまり「話し合う」より、「今を精一杯生きる」ことに価値を見出していたのです。「人生で重要なことは生きることであって、生きてきた結果ではない」とゲーテは述べていますが、瀬戸君の中に流れていた「平成業成」の思想と実践は、宗教を超えて生きていたのだと思います。

ます。先ほどから「だれに対しても区別なく受け入れ、やさしかった」と書きましたが、親鸞を特徴づける「悪人正機」は、教条的ではなく、血となり肉となり、人格の核となっていたのだと思います。「いつかはではなく今、今を生きているのであればいつまでも幸せにはならない。過去と未来を解くカギは『いま』にある」。人付き合いのよさは、これが原点かも知れません。

彼の気遣いはいつも同じでした。帰郷したとき上原義武君が経営する古仏頂の幸福温泉に「これから行くよ」と電話すると、タオルを提げて駆けつけてくれました。人吉で講演会を開くと顔を出すか、メッセージをよこしてくれました。

私たちはあだ名で呼び合うのが普通でした。がんちゃん(加登住道)、しよっちゃん(松本彰二)、がっちゃん(白垣宏三)、とらちゃん(池田寅男)、えっちゃん(速永悦朗)、恵喜ちゃん(富田恵喜)……という具合です。私は「喜代さん」か「喜代ちゃん」でしたが、瀬戸君は最後まで「東君」でした。結局みんなも彼にはあだ名はつけず「瀬戸君」で通しました。この原稿を在京の仲間に見てもらって知るのですが、中には「ちこちゃん」「ちこさん」と呼んだ人もいたようです。女性たちは例外なく「瀬戸さん」でした。きつと精いっぱい、の尊敬を込めた呼び方だったと思います。

彼が怒ったり、不機嫌になったのを私は見たことはありません。ぽん

友の藤原宏君に聞くと、「いやそうでもないよ。時には向きになることはあった」と言います。心を許す相手によったのかなと思います。とにかく彼は理性的で自己統制のできる人だったのです。

☆
瀬戸君の息子さんは2人で、お2人とも人吉で医者さんです。私には息子が3人います。3人とも教員という同業者。彼らは親の仕事の厳しさ、困難さを知ってか知らずか、後継ぎをしようとしません。今年、狭山ひかり幼稚園の創立50周年。一人ぐらいは手を挙げてくれるといいのですが。

「教育要領」「保育指針」「小・中学校の学習指導要領」等が改定になり、平成30年に高等学校の「指導要領」が告示されました。これらは従来の断続的な教育目標、教育課程と違い、1歳から18歳の成長を見据え、新しい時代に即応する一貫した教育の目標と課程を示しています。ここでは詳述はできませんが、ひと口で言うと「心身ともに健康で、意欲、自主、自制(我慢や頑張り)にあふれて協働(協調)する豊かな心、国際人」。在りし日の瀬戸くんを思い返していると、彼はそうした「時代の申し子」「次代の先駆け」だったと思います。

終わりに
今わが国では新しい時代に向けて、

☆
稿を閉じるにあたって気にかかることが一つあります。彼のように世

のため人のためになった人は多くはいないと思うのですが、褒章や表彰はなかったのでしょうか。彼の功績を見ればどんな勲章もふさわしいと思います。人のいのちの尊さを生涯かけて守り続けたこと、山深い地方で薫り高い映画文化の火を灯し続けたこと(人吉くま映画文化協会)、音楽、演劇(ひとよしくま演劇鑑賞会)、文学・歴史、あらゆる方面で献身的に努力したこと(『くまがわ春秋』の常連でいつもウィットに富んだ記事を書いていた)、自然保護、特に川辺川の清流を守るために積極的に関わったこと、社会的に弱い立場の人のために社会福祉法人「白いキャンパス福祉会」を立て上げ、就労移行、就労継続支援活動を続けて来たこと。進歩的で愛と

記憶の落穂

その ⑤2

絵と文／坂本福治



谷川岳挑戦

私の休日は水曜日だけだった。水曜日が休みの友人は一人もいなかった。一度でいいから近くまで行きたい、あまり危険でない道を地図で見付けた。

「こんなに、天気はめったにない」とラーメン店で言われ、シメシメと思い、昼頃弁当を食べていると、目の前に白い雲が浮いていた。「これは危険!」と勝手に判断し、リフトへ走った。ところが、動いていない!すでに登山客のいない時間なのだ。走って下るしかない。ところが、リフトの下には、登山者がころんで行かないように、兎の罠のような網が、何メートルおきに張ってあるのだ。これにひっかからないように、走って下ることの何と大変だったことが。

次はケーブルカーである。時刻表では遅刻していないが、登山者がいないので、運転士もいない。人がいそうな所を探しまわり、ようやく動かしてもらった。ケーブルカーの下には紅葉の森が続き、薄暗かったが、予想外の谷川岳登山となった。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

正義感にあふれた言動は、見えるところだけでなく、見えないところでも波打っています。

彼は理想や理論を並べるだけでなく、全身で、やさしさを表現しました。逆に言えばどんな賛辞や称賛は、彼には似合わない、間尺に合わないかも知れません。もしかしたら、「無冠こそが最もふさわしい大勲章」なのかも知れません。

☆

最近『人は、なぜ他人を許せないのか?』と題する本（KKアスこむ社刊 脳科学者・中野信子著）が出版されました。「他人の意見を聞かない」「自分は絶対正しいとして、他人の言動が許せない」「考えの違う人を悪だと考えてしまう」「個人より集団の目的が優先されてしま

う」…。

私は小学生のころから瀬戸君を見てきましたが、彼のどこを切り取ってもこうした発想は出てきません。むしろ真逆です。欠点や弱点はあつたと思うし、神ならぬ身です。から完璧ではなかったと思うのですが、それにしてもこうした資質・能力・人格がどこから生まれ、どのように形成され、どう醸成されて来たのか本当に知りたいと思っています。

☆

昨年10月の初め、リハビリの最中でしょうか「快方に向かっている。もう見舞いの手紙はいいから」と言うて来たので、文字通り快方に向かっていると思つて安心していました。

11月末、瀬戸君の訃報に接したとき、悲しみの中で、私は自分を

責めていました。「瀬戸君より長生きしていいのだろうか?」と。彼の足下にも及ばないのに、彼より長生きするのはまずいのではないかと思つたのです。それは天の思召しですから詮索は別として、私なりに長生きの意味を噛みしめながら、彼からいただいた恩義や、教えを反芻し、これから生かしていきたいと思つています。何より悲しみの極におられる御奥様とご子息たちに、心からのお悔やみを申し上げ、ご健勝をお祈り申し上げます。

【ひがし・きよお／人吉市願成寺町出身 人吉高校5回生、現在・埼玉県狭山市在住、学校法人石川学園理事長。元国立音楽大学音楽学部教育音楽学科、元大妻女子大学家政学部児童学科講師】

砂時計

—思い出るままに— (18)

小野武己

Ⅴ 大学生生活の思い出

Ⅱ 初めにⅡ

今までに、僕の脳裏に沸々としていた子供時代の思い出を書き記したけど、時は一挙に青春時代の最たる大学生時代へと飛んで行きました。

「縁は異なもの」と良くぞ言ったものです。成るべくして成ったのか、大学入学した頃の出来事を思い起こせば、ホントに偶然の重なりが、紛れもない事実になっているのです。

昭和三十六(1961)年四月、鹿児島大学に入学し、大学の学生寮に入ったのだが、新入生の教養寮は百人定員で、その中から偶然にも柴田直人君(もう一人、宮崎出身の森仁興君)と同室、教養十七号室になった。一年後

それぞれが専門寮に入るのだが、柴田君は農学・水産の新寮に、森君が文理学部寮に、僕が東寮に入った。そのもう二年後この東寮の僕の部屋に教育学部の尾方紘君が入室して来たのだった。

この尾方君とはその後、寮を出て、もう一人と共に三人で二部屋のアパートを借り、共同生活したのだった。

ある夏、尾方君の姉さんが勤めていた球磨郡上村の郵便局の局長の白石幸助さんの娘の白石恵子さんが、保育園の保母さんの講習会が鹿児島で開催されるとのことで、尾方君が段取りして、ホテルに泊まるより我々のアパートに来たらいいの事になって、友達的女性を連れて二人で見えたのでした。これが縁と言うものであろうか、球磨郡出身の柴田君、尾方君、上村郵便局の局長の娘さんと交わる事になったのです。その後、後日談はいろいろあったのですが、白石恵子は僕の奥さんになってくれたのです。

大学を卒業してからも柴田君と尾方君とはお付き合いを重ね、終生の友となったのですが、残念ながらその後、二人とも天に召されてしまいました。今もなお僕は現役で小児科の診療に携わっています。

そのような過去の経緯があつて、全くのよそ者であつた

僕が、「くまがわ春秋」に、『思い出るままに』を投稿させてもらっている所以です。

さらに僕の娘が、東大の文学博士ですが、今は亡き局長の白石幸助の力添えで、球磨の前田一洋先生の長年の研究論文を頂いたことが、博士論文の礎になったのです。そして娘と共に、前田先生は東大の助手と研究生の前で講義をされました。これは、一生の思い出になったのではないでしょう

うか。許されるならば、次は僕の大学生時代の「思い出るま

ま」を書き記したいと思います。肩の凝らないよ



教養寮 17号室住人。森くん(左)と柴田くん(右)



尾方紘くん

うにと、へえ、大学生つてそうなのか、と思つて頂ければ、幸甚です。ただし、今から、五十年以上も前の出来事です。ので、悪しからず、ご理解ください。

① 学生寮生活 — 竹の子堀り —

学生寮は鹿児島市の鴨池町の山の手の小高い広い場所にあつたが、むしろその地区は唐湊^{からみなと}と言つた方が馴染^{なじみ}まれていた。様々な地域から様々な学部の一学生が入寮してくる四月の月上旬は学生寮の事務室は、てんやわんやの大忙しである。

国鉄のチッキで送った荷物を受け取り、肩に担いで教養寮に向かう。指定された教養寮十七号室で紐解き当面の生活の場は確保されることになった。六畳の和室に三人だ。

昭和三十六年入学、鹿児島大学一年生は学生寮の教養寮に百人いた。全寮で三百人の大世帯であつて、専門生は学部ごとに専門寮に入っているのだが、教養寮には全学部の学生が混在していた。

同室になった柴田君は人吉高校出身の農学部(農業土木学科)、森君は高鍋高校出身で文理学部、僕は佐世保南高校出身で医学部であつた。

教養寮は木造の二階建てで、一・二階ともに真ん中の廊下を挟んで部屋が向かい合っていた。教養十七号室は階下の西側で北側の入口から四番目の部屋であった。

窓に向かつて、右端に僕、左端には柴田君、遅くやつてきた森君は真ん中で辛抱してもらうことになった。



寮生（全体）



教養寮 文理寮 東寮 西寮

水産・農学寮 グラウンド 大食堂 事務室 浴室

学生寮は優にソフトボールが出来る広いグラウンドを底部にして階段状になっていて、一段目と二段目は芝生で観覧席となる。その上三段目には鉄筋二階建ての水産・農学部専門寮。これは新しく建てられたものだった。一段高くなって手前の方には食堂と炊事場の建物と事務室が並び、さらに二段上がった高い五段目には南北に

長い教養寮と文学部寮と、少し離れて事務室の上の方に南向きの木造二階建ての東寮が建っていた。その東寮の二段くらい上方に西寮が建っていた。学生寮から南方向を眺めると、錦江湾越しに桜島が一望のもと眺められる。

それぞれの建物の裏の広場には洗濯物干し場と鉄棒が設えてあった。他に何も無い殺風景な広場であったが、寮生は時に鉄棒にぶら下がっては眠気覚ましに利用していた。

教養寮の広場の向こう側は雑木林になっていて、それが目隠しになっていたのだが、その雑木林の後ろ少し低くなった処に少年鑑別所があった。さらにこの教養寮の南側の下方、水産・農学寮の裏側にはちょっとした竹林が広がっていた。

各学部毎の新学期のオリエンテーション、学生寮も諸行事などで四月は飛んでいく。

五月の連休前に、鹿大の女子寮と看護学生寮との合同の新入生歓迎ビクニックがあるが、これが終る頃より、寮生は徐々に打ち解けあっていくのだった。

覚えたばかりの紫煙に咽びながら、窓際に積んだ布団に寄りかかって寛いだ気分だ。先住者が残した壁の落書きに目を走らせていると、同室の柴田君が鼻歌混じりで（彼は何時もそんなのだが）足音も荒々しく部屋に戻って来たのだが、すぐに作業着に着替えている。さらにゴム長を履きながら言った。

「小野君よ、竹の子堀りに行っどお」

「えっ、何んてな？」

「竹ん子掘りたいね。裏の竹林にニヨキニヨキ出とるったい」

人吉市から多良木方面の神殿原出身の彼には竹の子を掘ることなど造作もないことだったのかもしれないが、僕には思いも及ばない事であった。

戦後、上海から引き揚げて来て以来、各地を転々として、やっと佐世保市の早岐という町に落ち着いた当時、貧しかっ

た我が家は、母はお針仕事の傍ら、僕が小学校の高学年から中学校卒業頃まで、家主さんから裏山に畑を借りて、素人ながら自給自足の野菜作りをしていた（2019年8月号の肥え汲み）のだが、竹の子堀りはしたことが無かった。

「うん、行ってみようかね。ばつてん僕にも掘れるやろうか」

「簡単たいね。教えてやつけんが、行っど、行っど」

ジャンパーに腕を通しゴム長を履いて、事務室でスコップを借り、彼に従い、頭陀袋（だだぶくろ）を肩に二人は竹林に向かった。

さすが柴田君は慣れていた。枯れた笹の葉の下にわずかに先っぽを覗かせている竹の子の周囲の土を掘り、その下にスコップをグイと打ち込み、グイと掘り起こす。

「小野君も掘ってみるとよか」

額にびっしりと汗を光らせた柴田君は言う。

僕は三十センチばかりの竹の子にスコップを力一杯叩き込んだ。

「はら、小野君、そいは、もう竹じやつど」

「そがんね、ばつてんが、食えんじやろか」

「筋張って、歯こたえのよからうな。アハハハハ」

立秋（りっしゅう《りつしゅう》）

「秋一時候」

【季語の説明】

大暑から数えて15日目頃で、例年8月8日頃。処暑までの期間が「立秋」である。暦の上では秋になるが、日中はまだ残暑が厳しい。古人は暑いさなかに一瞬でも涼風が吹いてくると、そこに涼しさを予感し、秋の気配を敏感に感じ取っていた。この繊細な感覚は伝統的に持っていた季節理解にあったと言える。

相撲（すもう《すまふ》） 「秋一生活」

【季語の説明】

奈良・平安時代、毎年7月（陰暦）に宮中で相撲節会が行われたため、秋の行事の季語となった。「相撲」の起源とされる力くらべは、『古事記』『日本書紀』などにも記載があり、古くは、弥生時代に豊穰を占う農耕儀礼として行われていたとされている。神社の境内などで相撲をとるのは宮相撲・草相撲と呼ぶ。

金魚（きんぎょ《きんぎょ》）

「夏一動物」

【季語の説明】

「金魚」は江戸時代に庶民の間に広がり、それからずっと人に親しみのある魚として愛されてきた。祭りなどで良く見かける「金魚すくい」を思い浮かべる人も多いだろう。金魚はすっかり日本の文化になっている。現代の金魚の代表的な品種には、ランチュウ、出目金、和金、流金など、およそ数十種類の品種がいる。

十河 智

● そぞろ歩く人の多さよ今朝の秋

【永田満徳評】

「立秋」は暑い盛りであるが、どこかに秋の気配を感じる気持が必要である。掲句は普段よりそぞろ歩きの人が多いことによって、「今朝の秋」であつたと気付かされたのであつた。「立秋」をよく捉えた句である。

辻井 市郎

● 泣くほどに笑ふ観衆泣き相撲

【永田満徳評】

「相撲」は相撲取りの姿や相撲場周辺の様子を詠むことが多く、写生の目が必要になってくる。掲句はその類の句であるが、泣いた赤ちゃんよりも笑った「観衆」に焦点を当てているところがよい。

藤野富士雄

● 出目金に貸してやりたき付睫毛

【永田満徳評】

「金魚」の一物仕立はいかに金魚の特徴をつかむかがポイントになる。掲句は異様に大きい「出目金」の目に「貸してやりたき付け睫毛」という気持になるとともに、微笑みたくなる可笑しみがあふれ、心惹かれる。

【ながた・みつり／俳人協会会員、熊本市】

このコーナーは、facebookグループ「俳句大学投句欄」で、毎週末に募集しているページからの転載です。

「ほら、ほんのちよつとばかり頭を出している、これ位の竹の子の周りを少し掘って、下にスコップを差し込んで、グイッと掘り起こす」と実践して教えてくれる。

「へえー、そが、すつとたいねえ」

教えられたとおりに夢中になって作業していると、ふと、枯葉をカサカサ踏みしめながら近づくと人影にギョッとなり、二人は手を止めた。

「誰いな、おはん達は…」

カーキ色の制服のオジさんが誰何する。

「はあ、学生寮の者んです」

柴田君、答える。

「ふーん、竹の子掘いな。よかな、ここは法務省の土地じゃつど」

「俺い達、学生寮じゃけん、文部省ですたい」

うん、柴田君、負けていないぞ、なかなかやるじゃない。

「じゃつどんが、この碍子を見んさい。おはん達は領海侵犯しとつとじゃつど」

オジさんはズツクの足で、笹の落ち葉をかき分けて白い境界の碍子を露わにし、それを指差しながら、そう言うのだった。

「ぼつとんが、掘つてしもうたもんは、しょんかな。ちいーと、俺いにも呉いやつたもんせ」

オジさんは頭陀袋の中から美味しそうな竹の子を選び取り、両手に抱えてスタスタと踵を返して戻つて行つたのだつた。

「しつかり勉強しんさいよ。学生さん。良かな、鑑別所の世話になるような事したらいかんぜよ」

との捨て台詞を置いて…。

なんじゃ、なんじゃ、それは…。

よつしや、もそつと掘ろうや。と、二人で一仕事して、頭陀袋を抱えて竹林を後にする。

ふと、目を上げると眼前には桜島がどしりと構え、うつすらと噴煙をたなびかせていて、錦江湾は西陽にキラキラと波打っているのが遠目にも眩しかった。

寮の賄いのおばちゃんに頼んで料理してもらつたのだが、なにせ全寮で三百人の大世帯だ。夜ご飯の味噌汁の中には、ほんの申し訳程度の「竹の子」さんしか泳いでなかった。

（つづく）

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

俳句大学投句欄①

秋晴(あきばれ)

「秋—天文」

藤本仁志

【季語の説明】

「秋晴」とは雲ひとつない晴天のこと。秋晴の時期には快晴の日と雨の日が交互にくることが多い。秋晴をもたらすのは秋の移動性高気圧で、日本上空が乾燥した空気で覆われ、空が一層澄んで見える。秋は夏と比べて陽射しが弱まり、すがすがしい心地になれる。傍題季語に「秋日和」「菊日和」がある。

● 菊日和庭より訪ひぬ母の家

【永田満徳評】

「菊日和」は菊の香がしみ通るように澄んだ秋の日をいう。掲句は「庭より」が眼目で、菊の手入れが行き届いた、肉親の「母の家」ならではの訪問で、気の置けない、気安い親子関係がよく描かれている。

稲妻(いなづま 《いなづま》)

「秋—天文」

江口秋子

【季語の説明】

「稲妻」の語源は「雷光は稲を突らせる夫(つま)」から「いなづま」になり、現代では「つま」という語に「妻」が用いられ、「稲妻」となる。雷の多いときは降水量や日照、気温など、稲の生育に良い条件が揃う。雷と豊作を結び付けていた古代の「生活の知恵」とその表現力の発想の豊かさから多くのことが学べる。

● 稲妻や魔女はなにかを煮てをりぬ

【永田満徳評】

「稲妻」は音響とともに、電光もおどろおどろしい。掲句は夕食の準備をしている奥様が「稲光」に青白く浮かび上がり、得体の知れない「なにかを煮て」いる「魔女」に見えてくる感覚を詠んでいる。

秋刀魚(さんま)

「秋—動物」

杉山 満

【季語の説明】

「秋刀魚」は回遊魚で、刀に似て細長く、背は蒼黒色、腹は銀白色のサンマ科の海産魚。名前の由来には諸説あるが、秋に獲れる銀色に光る刀のような魚という意味で、「秋刀魚」という呼び名や漢字表記がある。9月ころの脂の乗った秋刀魚は江戸時代より大衆的な魚として、食卓に乗っていたようである。

● 都から息子の帰郷秋刀魚焼く

【永田満徳評】

「秋刀魚」は今もなお、庶民の魚というイメージは強い。掲句は久しぶりに帰郷する「息子」にわざわざ「秋刀魚」を購入してもてなしている光景である。田舎を忘れないで欲しいという親心が伝わってくる。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

せきれい
鶴 鴿 短歌会

八月詠草

片づけで疲れし身体湯にひたる今宵の月はおぼろ月なり
災害で灯もつかない街になる夜の空には星輝ひて

釜田 操

亡き夫が愛した庭の木々なれどばつさり切つて心で詫びる
コロナ禍や水害なども知らぬげに茂る草との戦ひ始む

三原 光代

鹿の後追ひつつ登る市房の稜線を彩るツツジの中を
星空にホタル舞ひ飛ぶ故郷の棚田の苗も変わらず伸びて

橋詰 了一

若き日に母を亡くし子供らは数珠を握りて母をしのびむ
陽が昇りくらしの音はどこもなく人も影なく捨てられた村

守永 和久

水害の人吉球磨の哀しみよ錆びたる線路の蒼空に延ぶ
はらからの心こもりし見舞金手を合わせつつ届け作業す

河内 徹夫

合歓の花見れば「南の花よめさん」我はいっしか歌ひ出しをり
水害の実情日増しに明らかに「母なる川」に怖れ戦く

中村美喜子

球磨川の千年一度の豪雨とか冠水したる街の家々
滝の雨未だ知らざる息苦しさに大きな被害出ぬかと恐る

西 武喜

生涯の思い出詰まりし数々を濁流襲ひ持ち去りゆきぬ
日常の暮らし突然くずれゆく豪雨災害全てを奪ひ

堀田 英雄

年念し
450 誕生
下ろし
生記書

小説・相良清兵衛

32

山口啓二

相良清兵衛本然は蟄居中の弘前の町はずれの寺で、弘前藩主津軽信義公と家老・大道寺隼人^{だいどうしはんと}や松野大学ほか五人の重臣たちに、もう五十年ほど前の思い出話を聞かせ、人吉からこの地まで同行した家臣五人とともに遅い昼食を取っていた。料理や酒は信義公が城から届けさせていた。朝から本然の昔話に聞き入っていた信義公は、清兵衛の類稀なる才覚を認めざるを得なかった。

「しかし薬のこと、易学や儒教のこと、医術や戦術のこと、全てにおいて本然殿にかなうものはこの弘前には誰一人居りませぬぞ。さて、その知恵はどこから授かれたものやら」

「その全てにおいて拙僧の一番の師は丸目蔵人佐鉄齋^{まるめくらんと}入道殿^{どう}でございます。勿論、若くして新陰流を極められたお方であられたが、その後は『タイ捨流』を創始なされ、足利將軍義輝様の前で御前試合をなされ感状を戴かれ申した。それから肥前松浦や筑後、薩摩などで指導なされ、のちにわが藩の剣術指南役として長年ご活躍頂き申

きして貰わんとう」

「恐れ入つてございます。そう言えば丸目殿は忍術にも長けておられたのでござりまするか」

「御意に。そうじゃ、師の得意な忍法の技の一つに『眼つぶし』がござったが、七月七日、七夕の日の早朝七つ、丁度寅の刻に捕まえた青蛙の、背中を割いてその生き血を灰砂に混ぜて乾かしますと、なにやら強力な眼つぶしが出来るとかで、朝鮮での戦いの際にも幾度も使われておりましたなあ。あれにやられたらすべての者が失明するとか。

まあ、あのお方の敵に回らんで良かったよかった」

「丸目蔵人佐殿の『タイ捨流』にござるか。是非教えを請いたいものよ」

「ではいずれ弘前藩剣術指南役服部播磨殿とも御手合わせを願いますかな。のう勘右衛門」

「仰せの通りにございます。是非とも御手合わせ願いとございます」

【前回までのあらすじ】「流罪」という裁きを受けた清兵衛は、弘前藩津軽家へお預けの身となっていた。弘前藩主・信義公は昔話をしきりに聞いてきて、五十年以上も前の朝鮮出陣の話や島津軍との争いの話にも及んでいた。

した。儒学や易学の事、さらには忍術にすこぶる長けておいでで、又、能や狂言、書道も嗜んでおられ申した。医術や薬術に詳しく、お陰で幾人もの奇病難病を治していた。なんと齢九十^{よわい}まで長生きをされ、誠にもつて全てに優れたお方にございました

「ほほう、九十歳までとな。そういえばここに居る大道寺隼人は数え九十であつたよう」

「は、左様にございます。この大道寺隼人、何ゆえかこの年まで生きてしまい申した」

「誠にございますか。いやいや大道寺殿はまだまだお若い。おそらく百歳を超えても生きられることかと」

「その通りじゃ。我が津軽家の生き字引き、うんと長生

乙益勘右衛門は従者の中でも最もタイ捨流に長け、若いうちから丸目蔵人佐の直接指南も受けており、清兵衛本然の一番弟子でもあつた。信義公は乙益勘右衛門を見つめ、

「左様でござるか。では早速御手合わせ願おう。大学、その旨播磨に申し伝えよ。余も是非立ち会いたい」

「は、かしこまりましてございます」

松野大学が頭を下げながら返答した。信義公は更に言い放つた。

「本然殿ならご存知かと思うが、わが弘前藩は幾度もの家中の騒動で多くの家臣が討ち死にあるいは離れていき、その後各所から剣客などが仕官したので剣の流派が入り乱れております。代々の山鹿流から小野派一刀流、ト伝流、當田流、夢想流などと数知れぬのでござる。如何したものかと思案しておつたのじゃ」

「左様にございましたなあ。そのお話は江戸参府の折に幾度か聞き及んでござり申した」

「騒動は余がまだ生まれる前から、更には世継ぎをした後も幾度かござつた。厳寒のこの地ならでは聞き及んでおりますが」

「ほう、寒さがかわりますかのう」

■主な登場人物

相良清兵衛（軍七・頼兄）＝相良家 家老
津軽信義＝陸奥弘前藩主
大道寺隼人（直英）＝津軽家の家臣
相良頼房（長每）＝相良家 第20代当主

「なに、余の考えでござるが、冬があまりにも長く寒すぎるゆえ、その間に良からぬ詮索ばかりする輩が居るのではなからうか」と

「なるほど、左様にございまするか。まさにこの寒さは堪えますのう。そう言えば土佐守殿、筑後柳川藩の御当主立花宗茂殿も、すでに亡くなられたが肥前佐賀藩鍋島直茂殿も、対馬藩の宗義智殿も『タイ捨流』の免許皆伝を請けてござり申した。信義殿は柳川藩の立花宗茂殿は御承知ござりませぬかな」

「勿論存じております。江戸登城の折に幾度かお目にかかり申してござる。ほう、あの御人でもござったか」

「宗茂殿は拙僧より二つ年上でしてのう。いまだお元気でござろうが、太閤殿下から『忠義も武勇も鎮西一』と評されたお方にござる。朝鮮でのご活躍は御承知の通り。勿論関ヶ原では三成殿率いる西軍に加担されたが、大津城攻めを仰せつかり関ヶ原の参戦はござりませんでした」

「立花殿はたしか、徳川様の敵のなかで唯一領国が残ったお方かと存じておるが」

「秀吉公に忠義を立てられて西軍に加担されたが、関ヶ原のちは当然改易と相成りその後浪人暮らしをなされてお

られ申した。その後家康公にも認められ、家光公のお伽衆をなされてござり、四年後に陸奥の国・棚倉藩一万石を与えられて復権され、さらに三万石まで加増され、十五年後によりやく旧領柳川に戻られたのでござる。それにより柳川の地をまた治められる事に相成り申した」

「なんという強運のお方よのう。やはり丸目殿の『タイ捨流』の教えもありましたでしょうて」

「と申しますよりも、あのお方の生き方そのものに相違ござらぬ」

清兵衛本然は津軽のお殿様から酌をして貰いながら話を続けた。

「かたじけのうござります。で、徳川様から許された西軍の将は対馬藩宗義智殿も居られるが、宗殿は唯一朝鮮との交流を持たれておったゆえ、家康公としても先を見越されて宗義智殿を残されたのでござる」

「ほう。左様にござったか」

「それがために朝鮮からの通信使を呼ぶことが出来申した。朝鮮での戦からわずか十年余りのことにござる。神君家康公の先見が功を奏したということに。で、ここだけの話でござるが、宗殿は朝鮮との交渉の折になんと家康公の

御名をかたり、偽の『日本国印』を使い、朝鮮に攻め入った謝罪文書を偽造なされたそうにござる」

「左様か。さすがは家康公と思ひ申したが、宗殿もしたたか、でござるな」

「義智殿とは拙僧同い年でござって、朝鮮で丸目殿より『タイ捨流』の極意を伝授なされ申した。日本に引き上げる際には義智殿のお加勢が無ければ叶わぬところにござり申した」

師範丸目蔵人佐の『タイ捨流』剣法は本然や乙益、豊永馬場園、二人の印藤が津軽武士たちに指導を行い、藩主信義公の勧めもあつてすぐに弘前藩内各地に広まり、昭和になつてもその技が引き継がれていく。

津軽家の筆頭家老・大道寺隼人は翌年の寛永十九(二六四二)年八月、九十一歳で亡くなった。

その頃相良家江戸桜田邸では頼寛公の新しい若妻「紗江」殿が五月二十五日に嫡男長武君をご出産、のちの第二十二代頼喬公の誕生となった、こちらは稀にみる難産であつたため、日本で初めての帝王切開での出産だつた。そのため紗江殿はそのまま床に付かれ、ひと月後に十九歳で

亡くなられた。江戸屋敷にまた大きな宝篋印塔が建てられた。

ところで余談ではあるが、江戸で亡くなられた長毎公の生母了心尼殿と室い殿、それに長毎公、紗江殿のあわせて四基の巨大な宝篋印塔は赤坂の相良家江戸上屋敷にあつた。紗江殿が亡くなられて凡そ四十年後の天和三(二六八三)年に郷里人吉へ運ばれ、紗江殿は大信寺に、他の三基は相良家の菩提寺、願成寺の墓地に移されている。その時代、総重量凡そ十二トンもの墓石をどうやってあの江戸から人吉まで運んだのだろうか。

人吉では青井大明神の秋の大祭が近付いていた。頼寛公は前の年の清兵衛流罪に至る一部始終を棟札にしたためた、京都で作らせた神輿二基を奉納した。これも義父清兵衛に諭された『偽装工作』であつた。

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

字図で見る球磨の地名 ④1 上村重次

猫石（ネコイシ）

— 球磨村神瀬 —

球磨村神瀬字猫石は神瀬小学校の北西の山地である。南隣は字銭鎌（ゼンガマ）で「ネコに小判」の取り合わせが変わっている。

ネコは五千年以上の大昔に家畜化した。ネズミ駆除に利用され、エジプトでは宗教的崇拜の対象でもあったという。日本には二千五百年前にネコが伝えられたらしく、青森県の縄文時代後期貝塚から飼いネコの頭骨の一部分が出土している。

漢字の猫（びょう）を古語ではネコといった。高麗（こま）から伝来したので寝高麗（ねごま）になったと

か、ネコは寝ていることが多いので寝

子（ねこ）と呼ばれたのがルーツとも言われる。古代、ネコは宮中、貴族の間で愛玩される一方ではネコを妖怪変化視する説話も中国からもたらされ、中世になると魔物猫観はエスカレートして鍋島や有馬の猫騷動話へと発展した。（以上『国民百科事典』『大言海』による）

このようなネコの歴史と猫地名は無関係である。上代の天皇でネコの尊称があるのは7代・孝霊（大日本根子彦太瓊尊）、8代・孝元（大日本根子彦国牽尊）、9代・開化（稚日本根子彦大日尊）の三天皇がある（『歴史手帳』）。この根子は根本の意とされる。阿蘇の根子岳は猫岳と

【おこわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

も標記されるように、猫（ねこ）は根子の当て字である。地名用語としての猫は根つこ、即ち垣根（境）の「根」の表現である。

神瀬字猫石の北東に字根無（ネナシ）、根無平（ネナシヒラ）がある。根無というのは根の足がつまつた語で、山梨は山の足（麓）、坂梨は坂の足（坂本）というのと同じ。猫石は根つこ石、即ち境石のことであり、根無は根本、即ち境のことである。

ここは字戸屋山（トヤヤマ、戸はシャッターの意）を緩衝帯とする境界地であつたことが想定される。大分県豊後高田市の猫石（ネコイシ）は西国東郡真玉町との境にあり、神瀬の猫

石と同語同意地名と思われる。

阿蘇の根子（猫）岳（1408m）は阿蘇・高森・波野の三町村境であるが、本来は大分県の久住山と対応

する肥後・豊後国境の根つこに由来する山名だったのかもしれない。福岡県粕屋郡篠栗町と鞍手郡若宮町との境にある猫峠（ネコトウゲ）、同県八女郡黒木町の猫尾城は筑後・肥後・豊後の三国境にある。

以上の猫地名が境界に位置する事実を列記すると、水上村岩野の生善院に伝わる猫寺説話は、里傍（さとぼう、里にある傍示）が根子（境界）と俗称されたため、怨霊猫に結びついた地名説話である。阿蘇の根子岳にも古くから猫にまつる伝説がある。境界維持のための祟り話は人間の知恵であらう。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

球磨川の駅・ものがたり

＝肥前線（川線）とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

31連載に
駅が二冊に

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円（税込）

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

発行：人吉中央出版社 0966-23-3759

83 くまがわ春秋 Vol.54+55 2020.10.1

くまがわ春秋 Vol.54+55 2020.10.1 82

球磨弁の接頭・接尾語 ⑧



— 九月 —

前田 一洋

彼岸のさし

球磨・人吉地方での九月のメイン行事は、お彼岸の「お観音みゃー（参り）」である。その彼岸入りをサメ中日をオチュンチ、彼岸明けをサメと言ってきた。相良三十三観音ばかりでなく、小さなお堂でも「お茶たて」が行なわれ、村人達が接待して下さるのだ。

「遠かといよば、ゆう（よくぞ）参ってくだはんもした。しかとなものなござんさんども、もう昼つでござんもすで、赤飯ども存分にウツた

もつ（食へ）てくだはんもし」

「おどまーしらん、昼つ飯までおこつつおんなつて。ないばチイ頂かせてもりやもそ」

「何だりシカとなものなござんさんども、煮染めやら酢のものな、えろ（沢山）ござんもすで遠慮なしイたもつてくだはんもし」

車のなかつた時分には、その七日間をかけ歩いて参拝していた。そのため、お堂近くの民家では「観音宿」として参拝客を泊め、風呂から食事の接待までしてやるのであった。

けさかけ

「よかアお天気でござんもすことよなア、そいくさおちゅんち日和りちゅうとでござんもそたい。土手のケサカケ（彼岸花）どもが美しかこと、今年もゆう（良く）しゃー（咲き）てくれもしたなア。まいきや（稀には）にや、白かとも混じつとんもすが、珍しか」

「だい（誰）が言うて聞かすつてもござんさんて、お彼岸の来もせば間違やむのう、しもやーてくれもすでな、ナマだくしゃー」

「お陰で、汗もヒツくうでしみやもした」

「ケサカケの花ちゅうは、美しかばかいじゃぬせじに、根はモグラ避けになつもすとげなで有り難やことでござんもす。あし（私）どま子どん（子供）が頃、あの花で輪袈裟作つて遊びおつ

もしたたい。ここの堂さんで」

お茶の接待を頂きながら、土地の人達との会話のなんと楽しいことか。それに「花」を添えてくれるのが彼岸花。稔りの秋の田の美しき豊かさをいちだんとヒキ立てくれる。

でけ秋

きのふこそ早苗とりしがいつの間に稲葉そよぎて秋風ぞ吹け

この清々しく心豊かな気持ちには『万葉集』の頃と少しも変わらない。

「困ったもん、今年もヒツ遣うてしみやむかさんごと、供米（今もこぎやん用語のあつとすかにや）代のナマだくしゃひやつて来つとじやつが。トラクターもコンバインも、一番高つかとよば去年買うたし、もう何だり買うもんなかし銭な蓄まる一方じやつが」

「ほんとん、案じてみれば世ん中で一番邪魔やなつとが銭かもしれんな。

そつでちゅうて焼きシイたり、川さみや行たてうしつるわけもいかんし。毎年のことじゃあるいどん、でけ秋にやびんた（頭）のハチ割る。ちゅうごたる身分に、早うなつてみゅうぐたる」

そうした事で悩まないでいいように、農協からちゃんと肥料代、農薬代、農機具の残金などが間違いないで言ってくる。でけ秋の黄金の穂並みをウチ眺めるまでがハナなのかも。

敬老の日

「世間から鬼嫁上がりの姑婆ちゅわれおいやいた向かいの姑婆ばどんも、あんじゅらキヤなえやいたげながな。年から年中シカめ通しじやつたつらもチイ弛うでしもて、気のスン抜け

たゴム風船のごとしなとつやつとて」

「去年はつてきないた（亡くなった）かかさんにも、一遍だり今日は敬老会じやつて、ゆつたら行たて来ないよ、ちゅうてどま言いやれんじやつたとげなでまい。そして我が息子の嫁まで追え出やてばい、孫ごめたい」

さてさてそれから数日後、くだんの嫁さんが運転する車がやつて来た、孫達も一緒に。

「おかあさん、今日は敬老の日じやつて、お迎えに来ました。新らしか車椅子も買うて来ましたよ。ほらほら、みんなでおばあちゃんば優さしゅう抱えて車に乗せてやんない」

追い出した嫁さんの「仕返し」どころか、その心優しい行為に、「鬼姑」の心はどう動いたであろうか。九月二十一日は敬老の日。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

球磨弁の接頭・接尾語 ⑨

— 十月 —

前田 一洋



ウチ壊やされた禊橋

オツとる

十月一日は旧暦八月十五日、つまり中秋の明月（名月）。♪うさぎうさぎ何見てはねる十五夜お月さん見てはねる

素朴な童謡が懐かしい。

まだ電燈やガス燈のない頃、ランプやローソクの明かりはまことに貴重な存在だった。そのため一般の家庭では、せいぜい松の根を削ったのに火を点す「コトボシ」や、種油を入れた皿にジミを浸し、その先端に火を点す「ビョーソク」などの明りが関の山だった。

そうした中で三十日ごとに巡ってくる満月の十五夜は、まさに心浮き立つ夜。殊に旧暦八月十五夜は明月の名の通り明鏡そのもの。このため薄や団子を供え、もぐら打ち、成り木責め、あねどんのひゅう（尻）叩き、村中総出の綱引き、などと多くの行事があった。

またその夜は「ぬすどん晩」とも称して、子供たちばかりは、よそ様の柿などのなり物や、お供えしてある団子やいもなどを「オツとつ（盗む）」てもよいことになっていた。

イヨ根が切れる

十五夜のメイン行事は、なんと言っても村中総出の綱引きであろう。子供たちが家々を回って集めた「古わら（去年収穫した稲のわら）」で、大人たちが丈夫に綱（な）うのである。

やがて東の山かげから大きな十五夜お月さんが上るころ、もぐら打ちや成り木責めを終えた子供たちも、村の広場に集まって来る。そして西間の上と下、あるいは七地と浪床という具合に別れ、ドドンがドンドンの合図で引き合いが始まる。みんなが汗ばむ頃から、主取り爺さんの自慢の唄が始まるのだった。

♪十五夜の晩に綱引きがござる
チヨイ
えいやと言えは根が切れる
根が切れるイヨ根が切れる
チヨコチヨッピー
チヨッピーヤーチヨッピー
ちゅうちや言うみやチヨッピー

ちゅうて言えは人が知る

イヨ人が知る

チヨコチヨッピーチヨッピーヤー

チヨッピーちゅうちや言うみやー

かくて村中の大合唱となるのであった。

キツさわつ

「今年やたしかおくんちもなかとげなな」

「さいばーたい、そいもこいも新コロげどがお陰でじやつで。ゆうとしやぐのきつてキツさわつ。今年も孫どもがびんたば獅子面にウチ咬うでもらおてて楽しみしとつたて」

「獅子面もマスクして出るわけもいくみゃーでな。そしてあぎや口の太かで、新コロナがどしこでつちや、ひやつてくつどもんで」

「青井さんも禊橋やウチ壊やされたうえ、拝殿まで水に浸かつないたも

んな。そして、コロげどがうるちよろしとんもんじやつで、おくんちの行列まででけんちゅうはまこて気の毒なはなし。しゃぐのきつてキツさわつ」

本来ならば青井大明神の使いである獅子面に、新コロ妖怪なんかウチ咬んでもらった方が一番いいのであるうが。しかし獅子面も高齢者であるため、用心に越したことはない。「くんち日和りにくんち風」で元氣を出し、水害の復興に邁進しようではありませんか。

ヒツぱす

新コロナウイルス予防のため、マスクの着用はたしかに効果があるらしい。かつてのスペイン風邪以来、日本人は嗽（せき）や手洗いと共にマスク着用には慣れていたのであらう。ところが鼻んスウ（鼻孔）をツキ出していたり、

一人で車を運転している人がなぜ着用しているのか。そうした無意味なものも少なくない。

本来ならば、あんな物で口や鼻を塞いで健康に良いはずはないのである。繰り返される呼吸で湿気は溜り雑菌も殖えるはずである。さらに外したのをポケットに入れておくと、その中でもウヨウヨと（後略）。できればマスクなんかしないに越したことはないのだ。

更にもっと大きな悪影響が、それは人間関係の希薄化である。会話にしろ食事にしろ、顔全体の表情を伴って意志の疎通は行なわれる。それがマスクのため大幅にカットされ、心の通いを阻害しているのだ。それで不要な時には、できるだけヒツぱすしておきたい。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

新型コロナウイルス感染症(4)

女は偉い

人吉市医師会長 岐部明廣

この原稿は「7月号」掲載予定でした。
7月4日の豪雨のため、掲載を延期しました。
データは令和2年6月30日時点のもので、感染者数・死亡者数が大きく増加していますが、伝えたい趣旨は変わりません。

今、世界中が「コロナ」に頭を悩ませています。
世界の中で「コロナ」対策に成功し、称賛され、評価の高い国が5つあります。
皆さん、その5つの国がわかりますか？
それは

- (1) 台湾
- (2) 韓国
- (3) ニュージーランド

表 新型コロナウイルス感染症（令和2年6月30日現在）

	感染者数	死亡者数	人口10万人死亡者数
台湾	447	7	0.03
韓国	12800	282	0.55
日本	18383	973	0.76
ニュージーランド	1528	22	0.45
ドイツ	195042	8976	10.8
イギリス	313470	43659	65.1
フランス	201522	29816	45.9
アメリカ合衆国	2590582	126141	38.6

- (4) ドイツ
- (5) 日本

「驚いたことに」と言うべきか、「嬉しいことに」と言うべきか日本も成功し、評価の高い国の一つなんですよ。
嬉しいではありませんか。
この5つの国に「キーワード」があります。
そのキーワードが何かわかりますか？
それは「女性」です。

世界の「コロナ」との闘いのさなか、5つの国の5人の偉い女性をみてきた。
その偉い女性とは誰かわかりますか？
その5人の女性とは

- (1) 台湾総統の蔡英文
 - (2) 韓国疾病管理本部長の鄭銀敬（チョン・ウンギョン）
 - (3) ニュージーランドのアンダーソン首相
 - (4) ドイツのメルケル首相
 - (5) 日本の与謝野晶子
- （日本の場合は、明治時代の「スペイン風邪」が流行った時の与謝野晶子を選んだ。小池東京都知事さん、ごめんね）

まず台湾の蔡英文総統 がどうして偉いかって？
表をみれば、それは一目瞭然だ。

台湾の蔡英文総統は中国・武漢に「正体不明のウイルス感染症」が流行っているとの情報を知るや否や、1月初旬には迅速に下記の処置をとった。
速い。驚くほど速い。偉い。

- ① 徹底した水際対策
- ② WHOへの報告
- ③ マスク管理

早期の徹底した水際対策の効果は凄い。
世界が台湾の蔡英文総統と同じ対策をとっていたらと、悔やまれる。

たぶんパンデミックは起こらなかったでしょうね。
失業者も増えなかつたし、倒産も増えなかつただろう。
1500兆円の損失もなかっただろう。
東京オリンピックも今年には無事開催されたかもしれない。

台湾の蔡英文総統は、台湾大学卒、米コーネル大学留学、英ロンドン・スクールオブ・エコノミクスで博士号取得、27歳で大学準教授になった国際法の学者である。
政治家はでない。

その一方でWHO（世界保健機関）の駄目さが目立った。
この台湾の報告をWHOのテドロス事務総長は無視した。
悔やまれる。

米国のCDC（疾病対策センター）もこの武漢での感染症
情報をつかんでいたがトランプ大統領も無視した。悔やまれ
る。

女性の蔡英文総統の早い行動にくらべ、馬鹿なふたりの（男
の）馬鹿な判断が悔やまれる。

（失礼だが、ふたりの責任は多大なので、あえて「馬鹿」
といわせてもらう）

今回の「コロナ禍」の三悪（三馬鹿）は、コロナ感染症を
隠べいた中国の習今平・国家主席と、警告・情報を無視
したテドロス事務総長とトランプ大統領である。

仮にこの三悪（三馬鹿）の一人でも、偉い「女性」だっ
たと悔やまれる。

次が韓国だ。

表をみれば、韓国も凄い。評価が高い。

韓国大統領の文在寅（ムン・ジェイン）が偉いのではない。

文在寅は原理主義者であるが偉くはない。日韓関係を最
悪にした石頭だ。

どちらかと言えば馬鹿に近い。

ただ韓国政府の疾病管理本部長に鄭銀敬（チョン・ウンギョ
ン）を抜擢したことが偉かった。

偉い女性本部長・鄭銀敬に「コロナ対策」を任せたことが
偉かった。

韓国の「コロナ対策」を彼女が取り仕切ったのだ。
それが成功した。

①PCR検査の徹底

②コロナ専門病院設立

③軽症者の入所施設

「馬鹿な」男（大統領）を「偉い」女・鄭銀敬が救った。

おかげでその後の韓国総選挙で文在寅大統領の与党は歴
史的な大勝利をした。

文在寅大統領は、「次期のWHO事務総長は鄭銀敬（チョ
ン・ウンギョン）だ」と息巻いている。

鄭銀敬はもちろん政治家ではない。

美人でもない。

ソウル大学医学部卒（日本の東大医学部に相当する）の
優秀な予防医学専門の学者だ。

髪をきり、睡眠もけずり、化粧もせず、頑張った彼女は
今や「韓国のヒーロー」だ。

こどものためには周囲を気にしない。

彼女は国連総会で愛娘・ネーヴェ・テ・アロハ・アードン・
ゲイフォードちゃんのオムツを交換し、世界を驚かせた。し
かしお子さんの名前は長いなあ。

彼女の偉さは素晴らしい性格とコミュニケーション能力だ。
かならずしも美人ではないが、人間としての魅力は底知れ
ない。

敬虔なモルモン教の家庭で生まれ育った影響もあって、「親
切心」「共感」が彼女の信条である。世の男たちよ、見習っ
てほしい。

教育予算も大きい。

母は強い。

健康意識がなみはずれて強い。これもこどもを持つ「女性」
の特徴だろう。

ウイルス「根絶」を目標に早々に、

(1) 早期の水際対策

(2) 世帯ごと隔離

(3) 早期のロックダウン

「経済より健康を優先」の迷いがまったくない。

彼女の国民へのメッセージもすばらしい。

「親切心」「共感」という彼女の信条があふれている。

次がニュージーランドだ。

表からわかるようにニュージーランドも大成功した。

ニュージーランドの指揮も、やっぱり女性のジャシンダ・ア
ンダーソン首相がとった。

ニュージーランド史上最年少37歳で首相になった女性だ。

世界ではじめて首相在任中に産休をとった政治家でもある。

彼女の「復活祭のウサギ」「イースターエッグ」の話はすばらしい。何回聞いてもすばらしい。

ウィルス「根絶」とは凄い。さすが目標が高い。

トランプ大統領には彼女の「爪の垢を煎じて飲んで」もらいたい。

男は迷うが女は迷わない。男は経済が頭にちらつくが、女はちらつかない。

次はドイツだ。

表をみてください。

「ヨーロッパの中では、欧米の中では」という但し書きがつくが、ドイツが断トツに死亡者が少ない。

ドイツの指揮をとったメルケル首相もやはり女性だ。4人も女性がつづくと、これはもう偶然とは言えない。

彼女の3月18日の演説もいい。すばらしい。

何回聞いてもすばらしい。偉い。

メルケル首相は早期に、

①ICUベッドの確保

②軽症者の自宅療養

③自宅療養軽症者の「かかりつけ医」オンライン診療の対策をとった。

日本でも見習う点が多い。

馬鹿な対応の米国・トランプ大統領や、英国・ジョンソン首相とは雲泥の差だ。ふたりの男の「初動」はあまりにも遅すぎた。

初動の発言も馬鹿をきわめた。

何回聞いても呆れる。

仮にメルケル首相がアメリカ大統領だったらとつい想像してしまふ。アメリカ合衆国の死者はたぶん今の半分以下だっただろう。

仮に英国の首相があつたとき「鉄の女・サッチャー」だったらと想像してしまふ。たぶん英国の死亡者も今の半分以下だっただろう。

悔やまれる。

米国民や英国国民はもつと怒つてもいい。

メルケル首相は理論物理専攻の学者だった。もともと理数系で頭が良い。パンデミックの恐ろしさを知っていた。

男がヤミ献金汚職で失脚してゆく中であれよ、あれよとドイツ首相になつてしまった。

どうも女のほうが潔癖なのだろう。

最後に日本。

表をみれば、日本も良い結果だ。

安倍政権の対策が良かったというよりは、どうも日本国民の、

①習慣

②国民性

③医療レベル

が死亡率を押し下げたようだ。

「コロナ」対策に成功した5つの国の蔡英文台湾総統、文在寅韓国大統領、アンダーソン首相、メルケル首相の国民支持率は軒並み70%と高い。

しかし日本だけが例外だ。国民の眼は節穴ではない。

日本の安倍首相だけは39%と低い。国民は良く見ている。

「コロナ」対策に失敗したトランプ大統領、ジョンソン英首相、マクロン仏大統領と同じ低い支持率だ。

どうして与謝野晶子を選んだかつて？

どうして彼女が偉いかつて？

彼女は約100年前にスペイン風邪が流行ったときの日本国民の一人だ。

「君死にたまふことなかれ」

これは彼女の反戦歌だ。日露戦争の反戦歌だ。

日本全体が戦争に突き進む当時、政府を批判できない。

そんな中で戦場にでかける（出征する）弟へのメッセージに

託した反戦歌だ。戦争をする政府批判であつた。

勇気がある。女は強い。偉い。

もちろんこれは「新型コロナウイルス」とは関係ない。

与謝野晶子が偉いのは「感冒の床から」と題した「スペイン風邪」の論評からわかる。

彼女は、「大呉服店（今のデパート）、学校、興行物、大工場、大展览会等、多くの人間の密集する場所の一時休業・閉鎖」を政府に強く要求している。

驚いたねえ。100年も昔だよ。

「三密（密集・密接・密閉）の危険性を先取りしている。

100年も昔だよ。偉いなあ。

医者でもない、政治家でもない。

歌人にすぎない女性が要求している。

偉い。頭が下がる。

彼女は12人の子の母であつた。母は強い。

母は（女は）、「経済よりも健康を」まず考える。

女は偉いなあ。

世の男たちよ、しっかりしろよ。

（啞ア、わたしも男だった）

【きべ・あきひろ／人吉市】

益田啓三『小説 肥後人吉藩残照』を読む
—人吉に住んだ最後の殿さま— (人吉中央出版社)

篤き応援歌

感 涙



相良家台37代当主・相良頼綱の人生を語ることに本書の主眼がある、頼綱は「饅頭屋の殿様」として有名で、封建遺制の呪縛を解き自由人として生きようとした人物であると単純に理解し、本書もそのような視点でまとめられているのではないかとこの予断のもとで読み進めた。この予断は必ずしも的外れではなく、そのように読んでも十分に楽しめる。けれど、私は違うように読んだ。本誌「くまがわ春秋」への応援の書ではないかと思えて途中から涙が止まらなくなった。本書は42名の

ているほかに「重陽」に一節を裂いているのも偶然ではなからう。

頼綱と幸

1868年、幕藩体制は崩壊し明治維新がはじまる。頼綱は明治9年生まれで維新時にはまだ生まれていない。当時の藩主は頼綱の父・頼基である。維新政府の方針にしたがい、頼基は版籍を奉還し、「人吉藩知事」に任命される。頼基は明治8年隠居屈を出し後継を甥の頼紹（よりつぐ）に譲っている。著者は「当主の座に疲れたのか当主の座に固執しないのは、頼綱とよく似ている」とする。専門家の判断である。それに異を唱えるつもりはない。ただ維新後、政府が藩知事の交代を積極的に進めていたこと、明治8年は大隈重信の失脚した政変の年であったことに注目しておきたい。維新直後に「旧守派」の追放が始まり、明治8年頃には維新政府内の分裂も顕著になっていた。

頼綱が家督を継いだのは大正13年（1924年）である。明治維新から56年後ということになる。それでも頼綱は「殿さま」であった。幕藩体制下の旧藩主に爵位を授けその私的財産を保護する政策を採用したことで封建的遺

「創作上の登場人物」を配置する手法を採用し、そのなかのある人物を通して、苦労を重ね借金まみれになっても鉅脈を探し求めることの意味が語られているのだが、その箇所は本誌の応援歌としてしか読めない内容である。一向宗禁庄のもとでの安心和尚の布教活動、渋谷礼の肥薩線開通への尽力、日野熊蔵の飛行機政策への傾倒に通じるものがそこにはある。出版日は8月9日。洪水日のわずか1ヶ月後の出版である。前号（52・53合併号）の表紙裏に本書出版宣伝が掲載されていて、「泥の中から生まれた一冊。緊急出版」のリードのもとに次の一文がある。

今年の元旦より書き始めたこの小説『肥後藩残照』相良綱頼は、7月に上梓の予定でしたが、今回の水害により本の出版どころではないはずなのですが、ヘド口との闘いに疲れ落ち込む自分の心にシゲキを与えたくて、この様な状況の中に敢えて出版することにしました。

「自分のココロ」と限定されているが、その射程は他の被災者はもちろんのこと、本書を読めば的中心に本誌があることが分かる。あえていえば、登場人物に工夫を凝らし

制が存続し「残照」になった。現在でも、「相良家臣団」の言葉が残っている。「伝統」の束縛は強力である。その「束縛」は結婚にも反映した。頼綱は27歳のとき爵位を同じにする稲葉久道の娘・寿子と結婚するが、二人は結局離婚にいたる。円満を実現する夫婦ももちろん多くあった。しかし、結婚の前提は「家格のつり合い」であった。それは庶民も同一で、現在でも学歴と関係しつつ、残存している。たとえば、中卒男子と大卒女子の婚姻率は大卒男子と中卒女子の婚姻率と比較し各段に低い。

後妻になる「幸」は芸者であった。子爵の頼綱と「つり合い」が取れない関係にあった。2人は頼綱が50歳。幸が20歳の時に知り合った。年齢も「つり合い」が取れていなかった。「財産目当て」の陰口が幸に向けられることもあった。二人の人生がどのようなものであったかを推測を交えて本書はていねいに描いている。作者は歴史研究者である。行間に相良の歴史がさりげなく織り込まれている。遊び心もある。しかし小説としての完成度は高い。7月4日以降、最初に読んだ作品が本書である。避難所（八代総合体育館）で読んだ。

（春秋）

編集後記

人吉市の中心街はある程度片付いてきたが見えない状況にあり、道路が寸断された山間部はまだ手つかずの所が多いようだ。今号も前号に引き続き水害の特集となり、様々な方からレポート・論考を寄せていただいた。流域の悲惨な状況は目を覆うばかりであるが、今後の治水対策や暮らし方の参考になれば幸いである。★本誌第6号から寄稿していただいた森山学さんの「建築みである記」が最終回を迎えた（30頁）。48回、足かけ4年、執筆のために流域を歩かれた。その長丁場の活動に感謝したい。しかし今回の坂本町の被災状況の報告は、さぞかし無念なことであつたろうと思う。★弊社の被災の状況は前号で少し触れているが、在庫が水没したことは省略した。今回被災された購読者のために、弊社ホームページからバックナンバーのダウンロードが可能に。下記を参考にご利用を。（ま）

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hitoyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

今月の一言

『文読む月日』（レフ・トルストイ編著）（北御門二郎訳）より

我々は他人のために生きたとき、はじめて真に自分のために生きるのである。一見不思議に思われるけれど、実践してさえみれば、本当だということがわかるだろう。

表紙写真

「泥の中からヒガンバナ」（人吉市下城本町）

前号2頁で紹介した事務所の前、何度かの雨に洗われた被災場所の茂みにヒガンバナが咲き始めていた。猛

暑が過ぎ、蝉と秋の虫の声が一緒に聞こえる不思議な夕刻、蝶も元気に活動していた。

撮影／松本学（編集部）



TAKEDA Eye Clinic

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

本誌バックナンバーのダウンロードのご案内



7月の水害により弊社刊行物の在庫の殆どが水没したため、本誌のバックナンバーの提供も困難となりました。被災された方の中にも月刊「くまがわ春秋」を処分された方が少なくないと思われますので、弊社ホームページにて電子版（PDF 型式）を提供することにいたしました。電子版では閲覧・印刷が可能です。

ホームページ右上のメニュー「ダウンロード」（バックナンバー）から入ると51号までのデータが揃っており、年内は無償にて入手可能です。

※「くまがわ春秋」で検索、右上の「ダウンロード」にアクセスしてください。

<https://hitoyoshi.co.jp/download/>